

乳幼児をもつ働く母親にとっての住環境に関する研究

中 島 喜代子

The Studies on the Dwelling Environment for the Working Mothers Who Have Babies and Little Children

Kiyoko NAKAJIMA

1. はじめに

現在、我が国では少子化が進んでおり、男女共同参画社会への動きも現れている。それに伴って働く既婚女性が増加しており、今後さらにその傾向は顕著になると考えられる。したがって、働く女性のための社会的対策を実施することが、特に必要となっている。働く既婚女性は家事・育児と仕事の二重負担を抱えており、時間的な余裕もなくオーバーワークになっているのが現状である。これを解消するためには、一つは社会的慣習と仕事の忙しさのため、ほとんど家事・育児に参加していない夫の家事・育児参加を押し進めることが必要であり、企業の対応をさらに進展させる対策をとらなければならない。二つ目には、夫の家事参加という家庭内の改善策だけでは解決しきれない部分の問題がある。それは、地域・社会のサポート体制の充実であり、社会的施設の整備・充実が急務となっている。

これまで、共働き家庭の生活や家事労働に関する調査や研究は幾つか行われているが、外部サービスを中心にした研究はみられない。

そこで、本研究では、働く既婚女性の生活実態・生活意識とその問題点をとらえた上で、社会的な住環境面における問題点、特に、外部サービスにポイントを置き、その現状と問題点を探る。そのため、特に家事・育児に最も負担が重いと考えられる乳幼児をもつ働く既婚女性を対象として調査を実施する。また、外部サービスの立地条件に強く関係する調査対象の居住地を、駅に近い便利な居住地と駅に遠い不便な居住地に分けて、二つの調査対象別に分析を行う。

本研究は、働く既婚女性をサポートする社会的施設を整備・充実させるための、改善方向をみいだすことに役立てることができよう。

2. 研究方法と調査対象の概要

1) 研究方法

本研究の目的を達成するため、乳幼児を持つ働く既婚女性を調査対象にすることとし、三重県津市内に所在する8保育所に対して、調査を実施した。また、居住地による影響を考慮して、調査対象を居住地別に分けて分析するため、保育所の所在地によって調査対象を二つに分類した。一つは、近鉄の津駅と江戸橋駅に近い保育所に入所させている母親であり、他方は両駅に遠い保育所に入所させている母親である。前者を、「居住地が便利」な調査対象とし、後者を「居住地が不便」な調査対象として、分析を行う。回答者は、いずれも母親である。

調査時期は、平成7年8月～9月であり、有効サンプル数は、「居住地が便利」な調査対象226件、「居住地が不便」な調査対象226件の計452件である(表1参照)。

表1. 調査対象数

		配布部数	回収部数	有効部数
居住地 が 便利	さつき保育園	105	75	72
	新町保育園	56	44	42
	観音寺保育園	48	32	31
	津市中央保育園	118	83	81
居住地 が 不便	高茶屋保育園	143	81	77
	雲出保育園	64	38	38
	泉が丘保育園	68	39	37
	片田保育園	89	75	74
計	「居住地が便利」	327	234	226
	「居住地が不便」	364	233	226
	全 体	691	467	452

2) 調査対象の概要

調査対象の概要を、表2に示す。調査対象全体では、住宅地居住者が7割、一戸建てが7割、持家が6割、平均部屋数5室、平均年齢は夫が35歳、妻32歳、平均家族人数4人、核家族率8割となっている。居住地別にみると、「居住地が便利」な調査対象の方が、住宅地、共同立て、借家居住者が相対的にやや多くなっている。

3. 調査結果と考察

1) 母親の生活と問題点

a. 母親の生活時間

母親の生活時間状況を、表3に示す。母親の出勤時間は、8時台と9時台で9割以上を占め、夫よりやや遅く出勤している。帰宅時間は、5時台と6時台で6割以上を占め、夫よりかなり早く帰宅している。就寝時間は、夫、妻ともに、11時台と12時台で7割を占めており、差はない。通勤時間は、30分以下が9割を占め、夫よりも短くなっている。しかし、睡眠時間は7時間以下が7割以上を占め、夫よりも短い傾向がみられる。

すなわち、妻は、勤務に費やす時間は夫より少なくなっているが、家庭内の仕事に費やす時間が多いため睡眠時間が少なくなっていると考えられる。また、夫は出勤時間が早く、帰宅時間が遅い等、家庭に関わる時間がかなり少ない状況である

といえる。

b. 家庭生活の状況

家庭生活の状況を、図1と2に示す。家庭における団らんは、「ときどき」あるいは「ほとんどない」が併せて4割あり、平日における夕食の取り方においても、「帰宅の遅い夫を除いて食べる」家庭が4割を占める等、夫の家庭生活への参加度はかなり低い状況である。

c. 社会生活の状況

母親の社会活動状況とその活動動機を図3と図4に示す。母親が、参加している社会活動は、「自治会・町内会・婦人会」と「PTA活動」を除いて、ほとんどみられない。

また、社会活動に参加する動機も、「地域住民との関わりをもつため」と「住民として当然のことだから」が多くなっており、個人的な人間関係や興味、自己の充実など、個人生活を豊かにするためや、社会をよりよくするために行われることは少ない。

d. 家庭生活に対する意識

母親の家庭生活に対する意識を、図5～7に示す。母親が、家庭に対してもつイメージは、「家族との団らんを楽しむ場」と考える者が8割を占め、「自己の向上のため勉強や趣味をする場所」ととらえている者は、ほとんどない。

また、家庭生活における優先度においても、

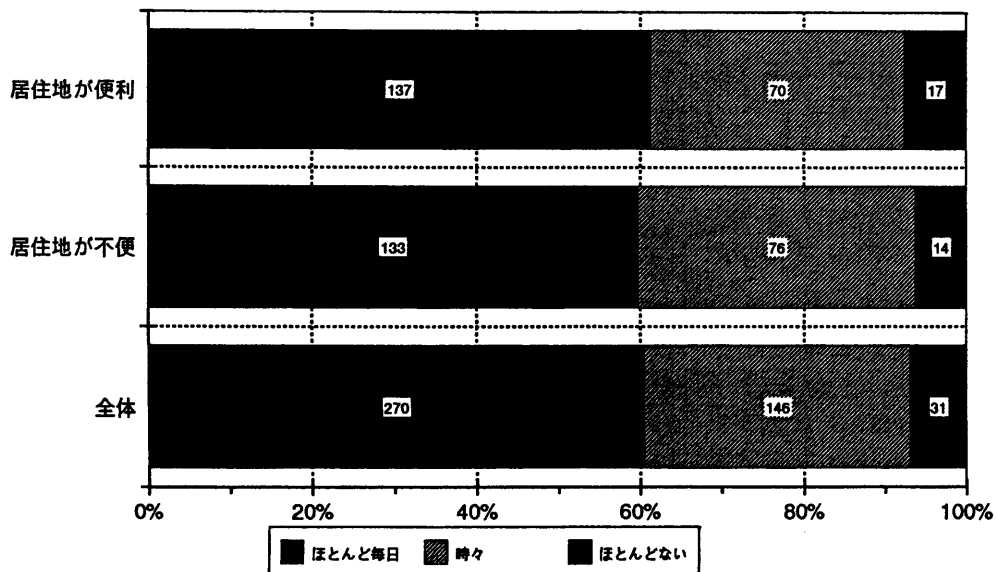


図1 団らんの状況

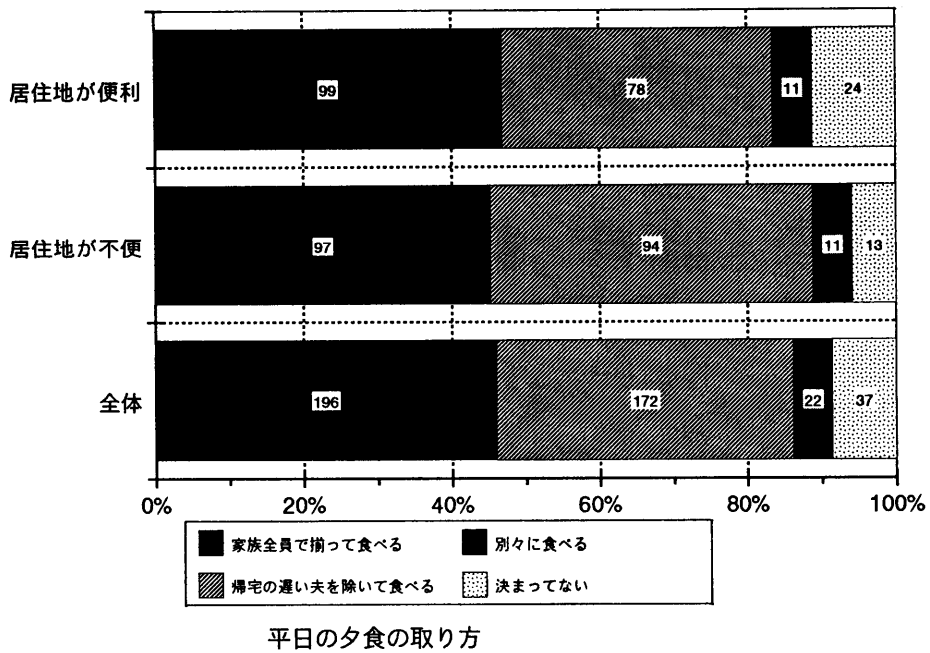
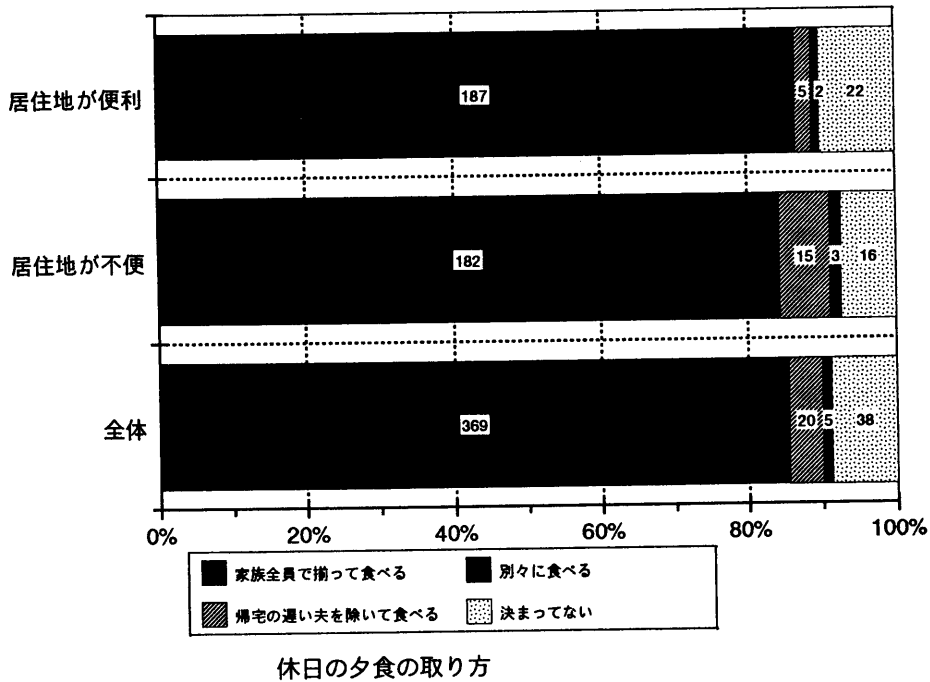


図2 夕食の取り方

表 2. 調査対象の概要

居住地域					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
地域名	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
住宅地	184	82.5	147	66.8	331 74.7
商業地	15	6.7	2	0.9	17 3.8
工業地	1	0.4	7	3.2	8 1.8
住・商・工 混合地	15	6.7	20	9.1	35 7.9
農業地	8	3.6	44	20.0	52 11.7
不明	3	—	6	—	9 —
全体	226	100	226	80	452 88.3

家族形態					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
家族形態	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
核家族	185	81.9	168	74.3	353 78.1
拡大家族	41	18.1	58	25.7	99 21.9
全体	226	100	226	100	452 100

家族人数					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
家族人数	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
2人	9	4.0	4	1.8	13 2.9
3人	55	24.3	42	18.6	97 21.5
4人	104	46.0	100	44.2	204 45.1
5人	34	15.0	45	19.9	79 17.5
6人	14	6.2	26	11.5	40 8.8
7人	10	4.4	7	3.1	17 3.8
8人	0	0.0	1	0.4	1 0.2
10人	0	0.0	1	0.4	1 0.2
全体	226	100	226	100	452 100
平均 (人数)	4.1		4.3		4.2

住宅形式					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
住宅形式	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
一戸建て	148	65.8	184	82.5	332 74.1
連続建て(長屋)	5	2.2	4	1.8	9 2.0
共同建て(マンション、アパート)	72	32.0	35	15.7	107 23.9
不明	1	—	3	—	4 —
全体	226	100	226	100	452 100

住宅様式					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
住宅様式	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
専用住宅	189	84.8	191	86.8	380 85.8
店舗併用住宅	21	9.4	9	4.1	30 6.8
工場併用住宅	0	0.0	3	1.4	3 0.7
農家	6	2.7	11	5.0	17 3.8
その他	7	3.1	6	2.7	13 2.9
不明	3	—	6	—	9 —
全体	226	100	226	100	452 100

部屋数					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
部屋数	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
3部屋以下	52	25.6	41	20.2	93 22.9
6部屋以下	107	52.7	116	57.1	223 54.9
9部屋以下	37	18.2	25	12.3	62 15.3
12部屋以下	6	3.0	19	9.6	25 6.2
13部屋以上	1	0.5	2	1.0	3 0.7
不明	23	—	23	—	46 —
全体	226	100	226	100	452 100
平均 (部屋数)	5.0		5.6		5.2

所有関係					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
所有関係	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
持ち家 (注文住宅)	100	45.7	123	55.9	223 50.8
持ち家 (分譲住宅)	24	11.0	39	17.7	63 14.4
分譲マンション	2	0.9	1	0.5	3 0.7
公団公社の分譲住宅	1	0.5	2	0.9	3 0.7
公団公社の賃貸住宅	12	5.5	4	1.8	16 3.6
公営住宅 (借家)	14	6.4	8	3.6	22 5.0
民間借家	57	26.0	38	17.3	95 21.6
給与住宅(住宅・官舎・公社)	9	4.1	5	2.3	14 3.2
不明	7	—	6	—	13 —
全体	226	100	226	100	452 100

家族形態					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
家族形態	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
核家族	185	81.9	168	74.3	353 78.1
拡大家族	41	18.1	58	25.7	99 21.9
全体	226	100	226	100	452 100

家族人数					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
家族人数	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
2人	9	4.0	4	1.8	13 2.9
3人	55	24.3	42	18.6	97 21.5
4人	104	46.0	100	44.2	204 45.1
5人	34	15.0	45	19.9	79 17.5
6人	14	6.2	26	11.5	40 8.8
7人	10	4.4	7	3.1	17 3.8
8人	0	0.0	1	0.4	1 0.2
10人	0	0.0	1	0.4	1 0.2
全体	226	100	226	100	452 100
平均 (人数)	4.1		4.3		4.2

家族周期					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
長子の周期	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
未就学	151	66.8	141	62.4	292 64.6
小・中・高	74	32.7	84	37.2	158 35.0
高卒以上	1	0.4	1	0.4	2 0.4
全体	226	100	226	100	452 100

夫の年齢					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
夫の年齢	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
25歳以下	9	4.4	10	4.7	19 4.5
26～30歳以下	30	14.6	45	21.0	75 17.9
31～35歳以下	67	32.7	66	30.8	133 31.7
36～40歳以下	63	30.7	49	22.9	112 26.7
41～45歳以下	26	12.7	27	12.6	53 12.6
46～50歳以下	7	3.4	9	4.2	16 3.8
51歳以上	1	0.5	1	0.5	2 0.5
非該当者	21	—	12	—	33 —
不明	2	—	7	—	9 —
全体	226	100	226	100	452 100
平均 (年齢)	35.1		34.7		34.9

妻の年齢					
件 数	居住地が便利		居住地が不便		全 体
妻の年齢	件数	(%)	件数	(%)	件数 (%)
25歳以下	18	8.0	23	10.4	41 9.2
26～30歳以下	76	33.8	69	31.1	145 32.4
31～35歳以下	85	37.8	79	35.6	164 36.7
36～40歳以下	33	14.7	40	18.0	73 16.3
41～45歳以下	9	4.0	10	4.5	19 4.3
46歳以下	4	1.8	1	0.5	5 1.1
不明	1	—	4	—	5 —
全体	226	100	226	100	452 100
平均 (年齢)	31.9		31.4		31.7

表 3. 母親の生活時間

夫の出勤

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
夫の出勤時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
午前 7 時台以前	58	29.9	80	39.4	138	34.8
午前 8 時台以前	98	50.5	104	51.2	202	50.9
午前 9 時台以前	22	11.3	9	4.4	31	7.8
午前 10 時台以降	16	8.2	10	4.9	26	6.5
不明	32	—	23	—	55	—
全体	226	100	226	100	452	100

妻の出勤

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
妻の出勤時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
午前 7 時台以前	11	5.4	14	6.6	25	6.0
午前 8 時台以前	94	46.3	104	49.1	198	47.7
午前 9 時台以前	79	38.9	73	34.4	152	36.6
午前 10 時台以降	19	9.4	21	9.9	40	9.6
無職	1	—	1	—	2	—
不明	22	—	13	—	35	—
全体	226	100	226	100	452	100

夫の帰宅

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
夫の帰宅時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
午後 4 時台以前	10	5.2	12	6.0	22	5.6
午後 5 時台以前	5	2.6	10	5.0	15	3.8
午後 6 時台以前	44	22.9	37	18.4	81	20.6
午後 7 時台以前	32	16.7	58	28.9	90	22.9
午後 8 時台以前	48	25.0	39	19.4	185	47.1
午後 9 時台以降	53	27.6	45	22.4	98	24.9
不明	34	—	25	—	59	—
全体	226	100	226	100	452	100

妻の帰宅

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
妻の帰宅時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
午後 4 時台以前	45	22.3	53	25.2	98	23.8
午後 5 時台以前	39	19.3	59	28.1	98	23.8
午後 6 時台以前	94	46.5	75	35.7	169	41.0
午後 7 時台以前	18	8.9	17	8.1	35	8.5
午後 8 時台以降	6	3.0	6	2.9	12	2.9
無職	1	—	1	—	2	—
不明	23	—	15	—	38	—
全体	226	100	226	100	452	100

夫の通勤

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
夫の通勤時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
0 分	12	6.2	9	4.3	21	5.2
1～15分以下	53	27.3	72	34.8	125	31.2
16～30分以下	70	36.1	75	36.2	145	36.2
31～60分以下	39	20.1	40	19.3	79	19.7
61分以上	20	10.3	11	5.3	31	7.7
不明	32	—	19	—	51	—
全体	226	100	226	100	452	100

妻の通勤

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
妻の通勤時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
0 分	11	5.3	15	7.0	26	6.2
1～15分以下	81	39.3	75	35.2	156	37.2
16～30分以下	88	42.7	107	50.2	195	46.5
31～60分以下	22	10.7	16	7.5	38	9.1
61分以上	4	1.9	0	0.0	4	1.0
不明	20	—	13	—	33	—
全体	226	100	226	100	452	100

夫の就寝

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
夫の就寝時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
午後 9 時台以前	7	3.6	14	7.0	21	5.3
午後 10 時台以前	23	11.8	21	10.4	44	11.1
午後 11 時台以前	71	36.4	94	46.8	165	41.7
午前 12 時台以前	62	31.8	53	26.4	115	29.0
午前 1 時台以降	32	16.4	19	9.5	51	12.9
不明	31	—	25	—	56	—
全体	226	100	226	100	452	100

妻の就寝

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
妻の就寝時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
午後 9 時台以前	23	10.8	12	5.6	35	8.2
午後 10 時台以前	5	2.4	3	1.4	8	1.9
午後 11 時台以前	38	17.9	39	18.1	77	18.0
午前 12 時台以前	73	34.4	106	49.1	179	41.8
午前 1 時台以降	73	34.4	56	25.9	129	30.1
不明	14	—	10	—	24	—
全体	226	100	226	100	452	100

夫の睡眠

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
夫の睡眠時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
6 時間以下	45	23.1	39	17.3	84	18.6
7 時間以下	69	35.4	95	42.0	164	36.3
8 時間以下	72	36.9	60	26.5	132	29.2
8 時間を超える	9	4.6	14	6.7	23	5.7
不明	31	—	18	—	49	—
全体	226	100	226	100	452	100

妻の睡眠

件数	居住地が便利		居住地が不便		全 体	
妻の睡眠時間	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
6 時間以下	77	35.5	72	32.9	149	34.2
7 時間以下	84	38.7	95	43.4	179	41.1
8 時間以下	48	22.1	47	21.5	95	21.8
8 時間を超える	8	3.7	5	2.3	13	3.0
不明	9	—	7	—	16	—
全体	226	100	226	100	452	100

「自分の生活よりも家族の生活を優先する」と考える者が6割を越えている。

その結果、「忙しく自分の時間がもてない」、「過労気味である」等、母親はまず自分の生活を犠牲にしており、さらに、家族団らんや育児にも支障を感じている者が多い。

e. 生活環境に対する意識

母親が、日常生活の中で問題と感じている点について、図8に示す。母親は、日常生活の中で、医療関係の診療時間や商店の営業時間、郵便物の受け取り等、勤務時間との関わりで生じる部分に問題点を多く感じている。

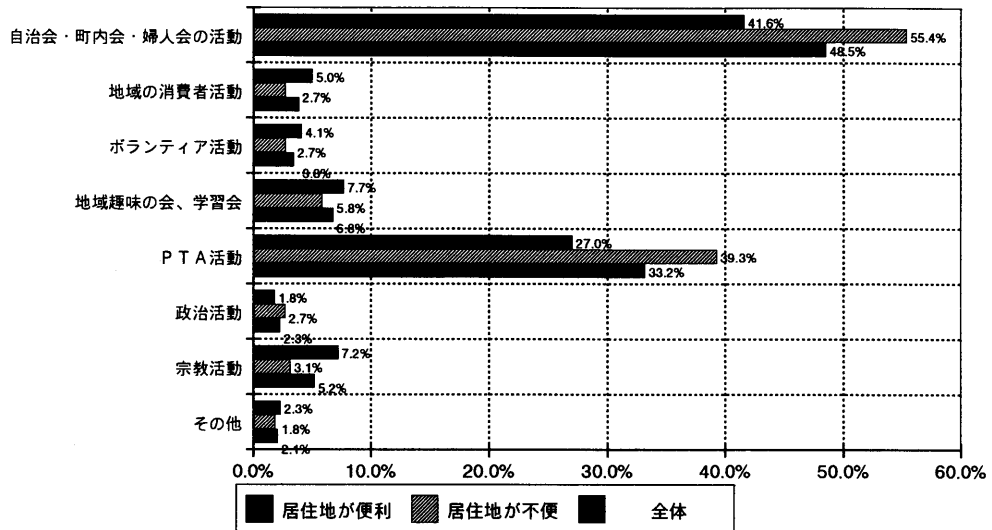


図3 社会活動への参加状況

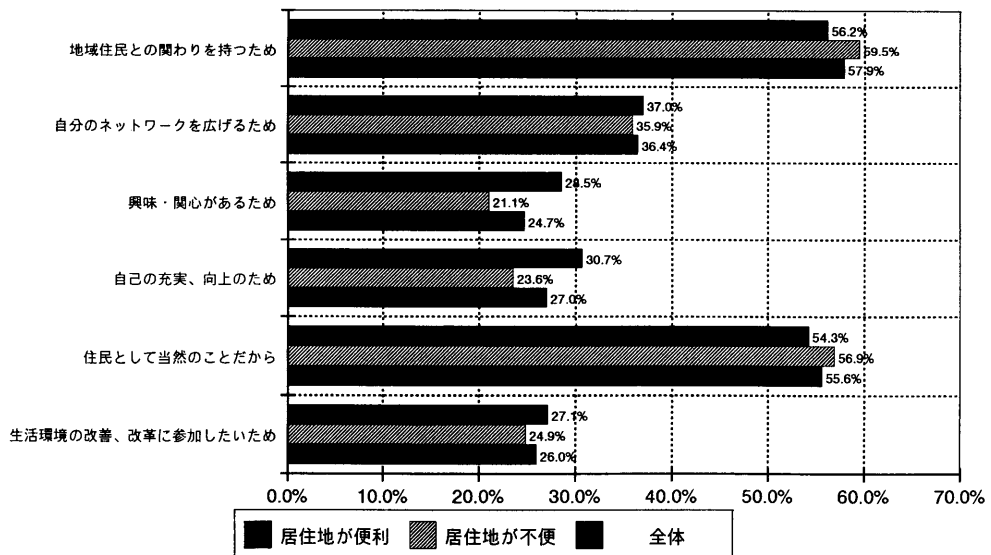


図4 社会活動への参加動機

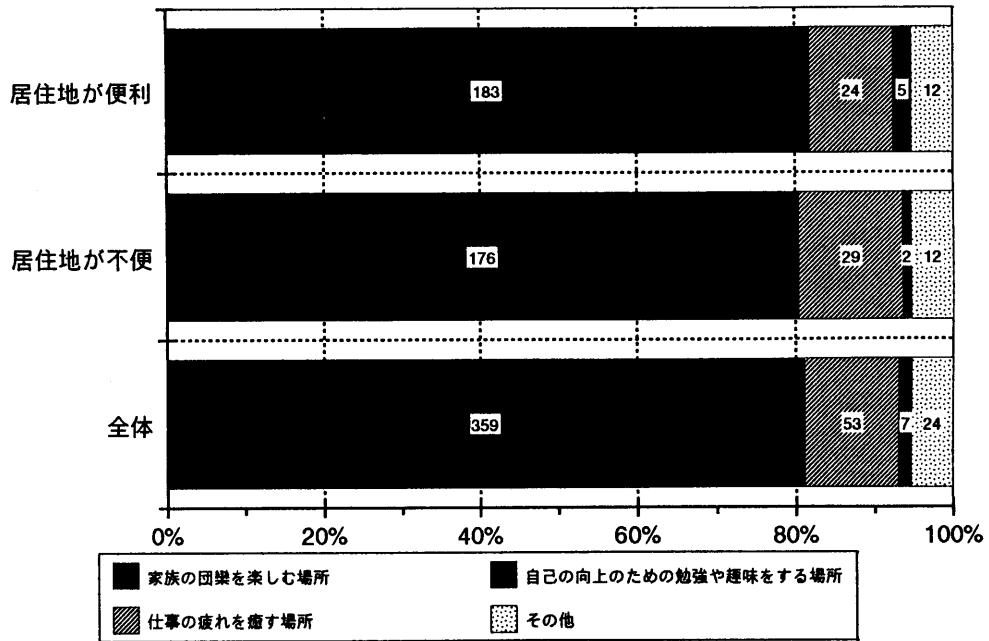


図5 家庭に対するイメージ

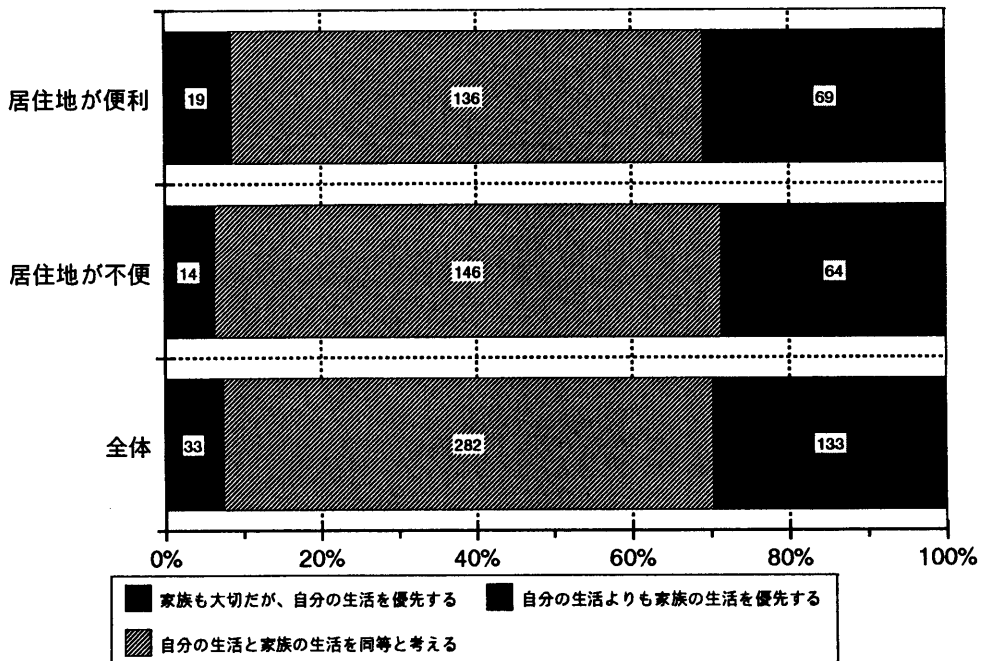


図6 家庭生活における優先意識

また、「居住地が不便」な母親は、交通の便や公共施設の利用面にも困難を感じており、「居住地が便利」な母親は、夜間の騒音や地域の活動への参加に困難を感じている。

2) 家事労働の現状と問題点

a. 家事労働の現状

家事労働の実態と理想について、図9～11に示す。家事労働の分担度については、すべて母親が担当している家庭が半数、一部分家族が担当している家庭が4割となっており、母親が家事労働

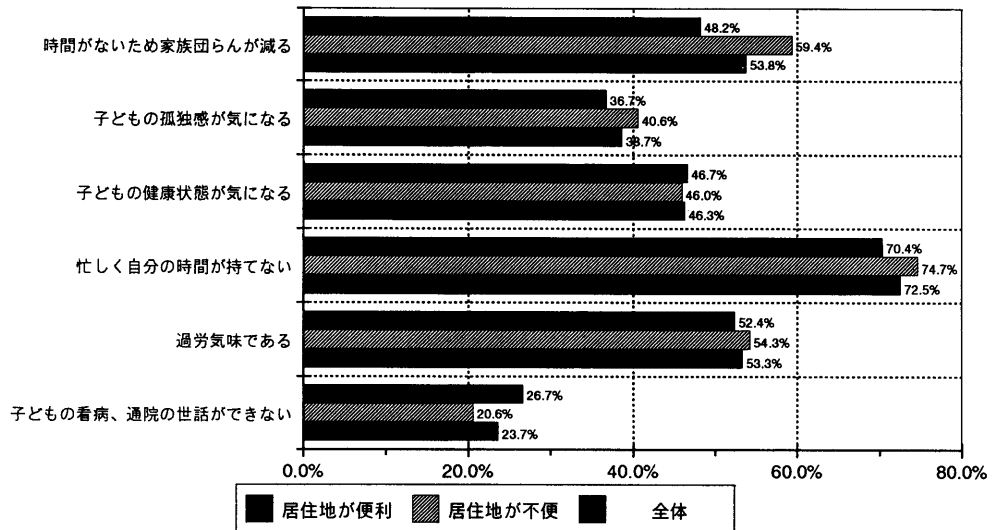


図7 母親の生活に対する意識

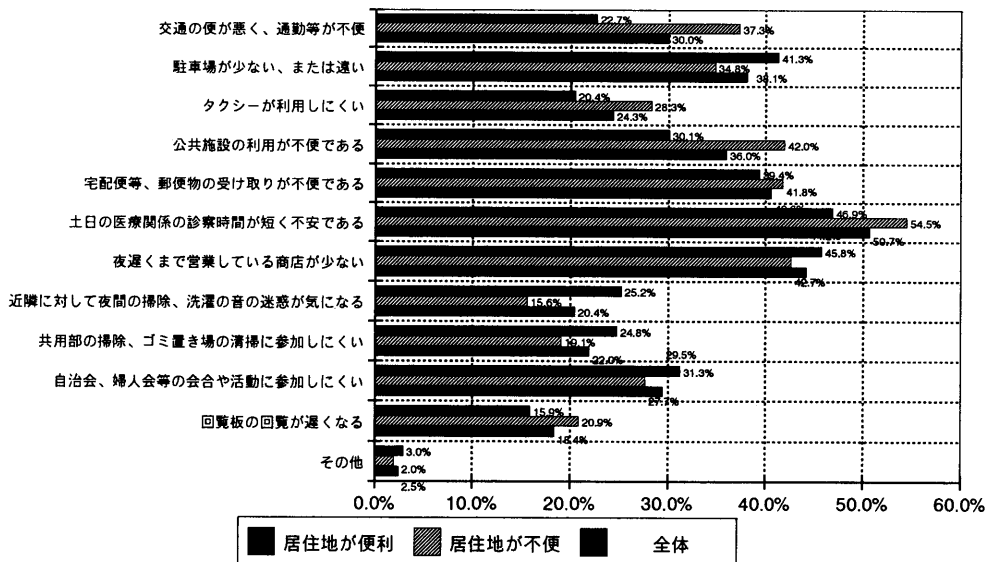


図8 生活環境に対する意識

のほとんどすべてを行っている家庭が圧倒的に多い。したがって、母親一人が仕事と家事労働の二重負担を抱えている現状が明確である。

しかし、家事負担を軽減するためにとられている現状の方策は、家族の協力と合理化機器の設備

によると考えている場合が多く、家庭内で行う方策に偏っている。また、家事分担度の現状から考えると、母親の家事負担が軽減化されているのは現実的にはかなり小さいものと思われる。一方、母親が理想とする家事負担軽減方策では、現状よ

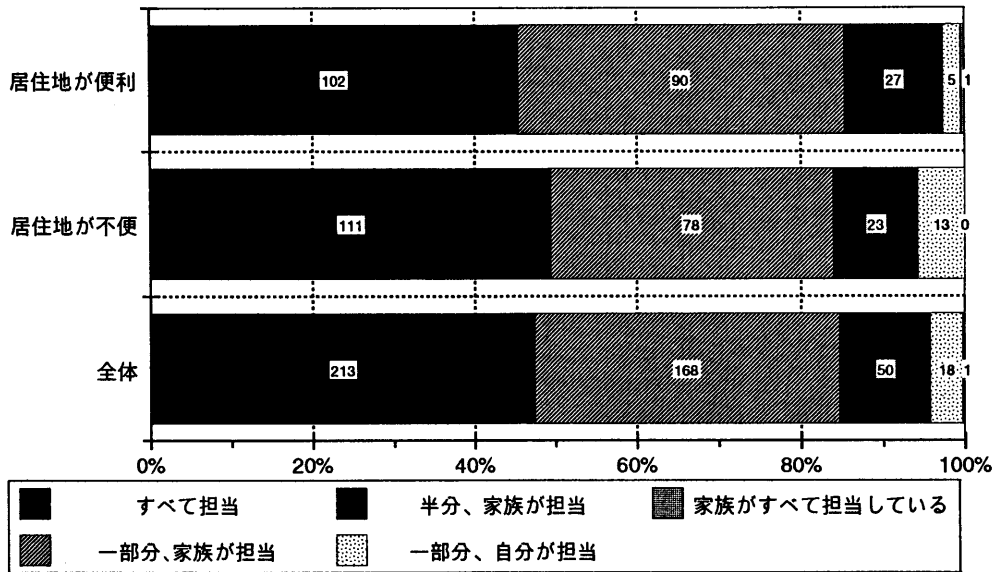


図9 家事労働の分担状況

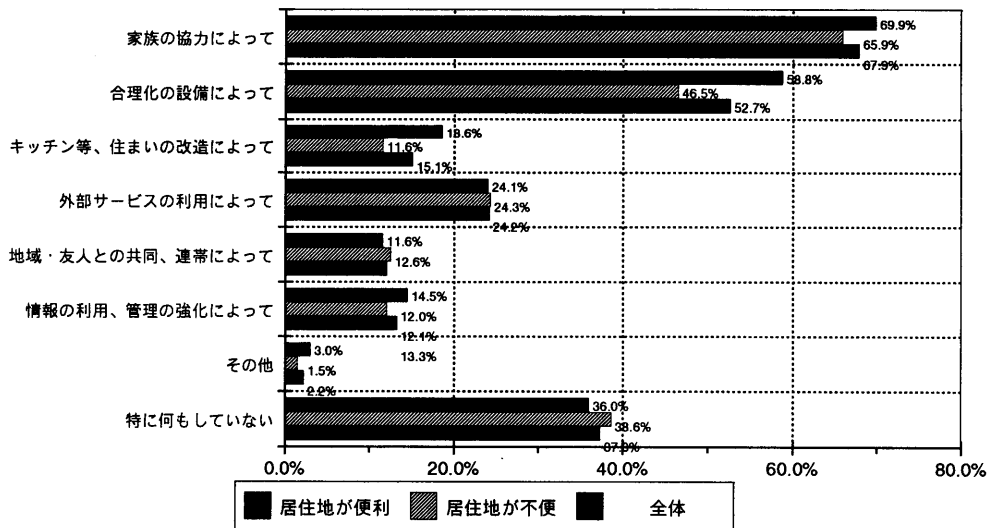


図10 家事労働の軽減方策（現状）

りもすべての方策についてその割合が増加しており、外部サービスの利用を理想と考える母親が4割に達している。

b. 家事労働による影響

家事労働による影響を、図12と13に示す。家事労働を、「家族とのふれあいであり楽しみの一つ」と考える母親が6割存在するものの、「趣味、

休息、勉強の時間をとられる」と考える母親が、最も多い。

また、家事労働の負担がなくなったら行いたいと考える行為には、「趣味・娯楽」「休息・睡眠」という個人的な行為とともに「家族とのコミュニケーションをとる」ことが考えられている。

すなわち、母親にとって、家事労働は個人生活

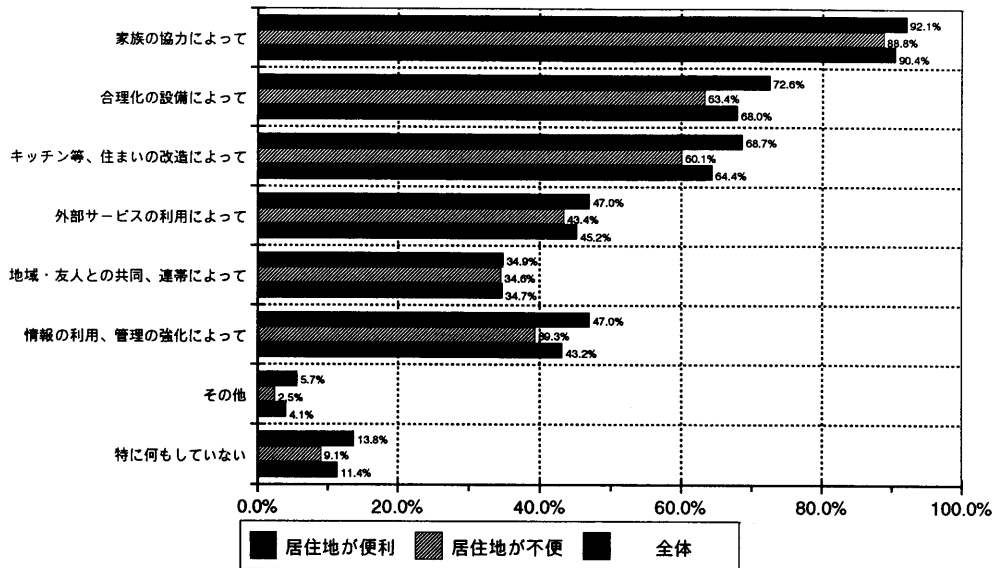


図11 家事労働の軽減方策（理想）

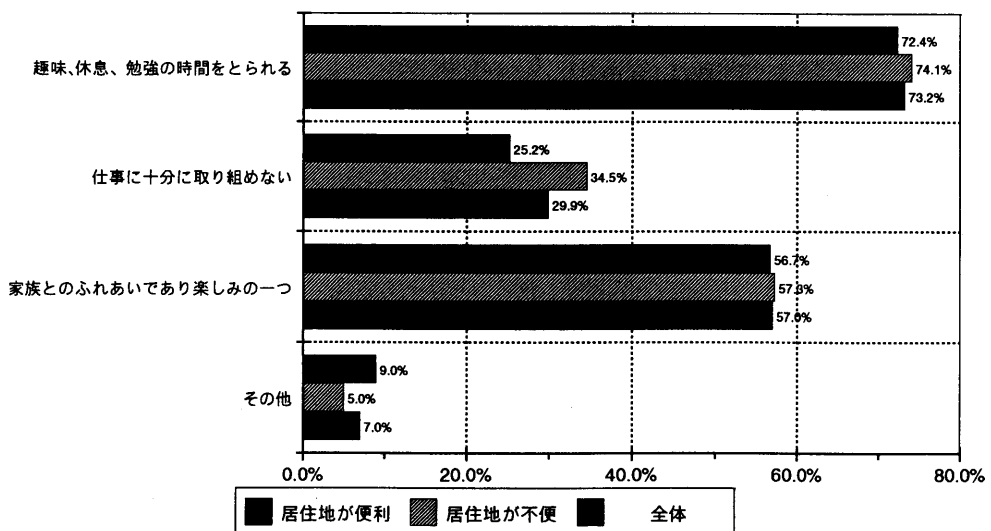


図12 家事労働による影響

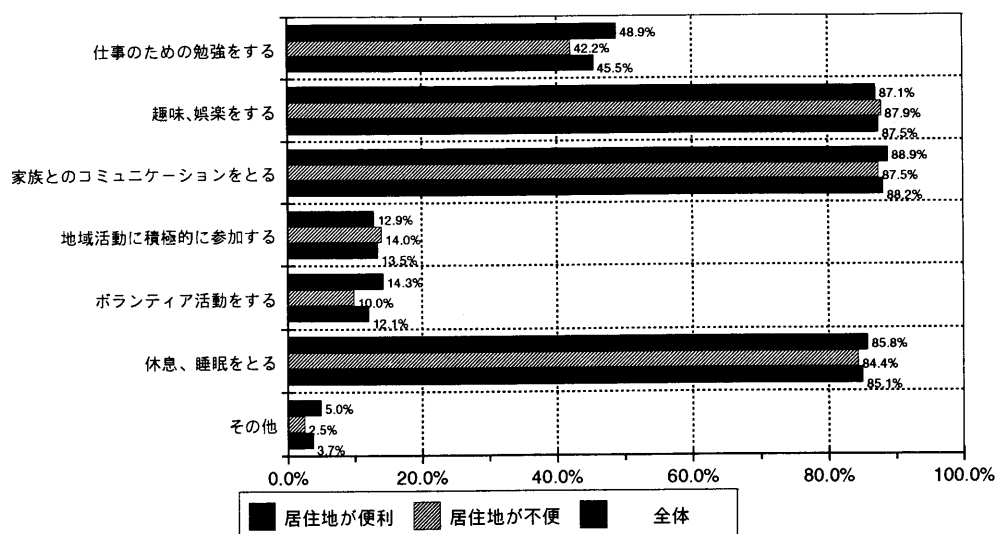


図 13 家事労働の負担がなくなったら行いたい行為

を犠牲にする大きな負担であるが、その反面家族のコミュニケーション手段であり、楽しみでもあると考えられている。したがって、家事労働の負担軽減を図ると同時に、家族のコミュニケーション手段としてその楽しみ化を進める必要があるといえよう。

3) 外部サービスの現状と母親の意識

ここまで、夫の家庭生活への関与度が低いこと、その結果母親は仕事と家事労働の二重負担を抱えて、個人生活を犠牲にしていることを、とらえてきた。このような母親の個人生活を改善していくためには、家事労働の負担軽減化を図らなければならない。しかし、夫の家事労働参加に多くを望めない現状では、家事労働の外部サービス利用を促進させる方策を考えざるをえない。

そこで、本項では外部サービスの現状と外部サービスに対する母親の考え方について、検討する。外部サービスを、表 4 に示すように、内容別に 9 分野に分類し、サービス形式別に「来店形式」と「宅配・派遣形式」に分類する。

a. 外部サービスの立地状況

外部サービスの立地場所について、「家庭の近く」「仕事場の近く」「通勤途中」の利用しやすい場所と「利用しにくい場所」別に、その存在の有無を質問した。居住地別にみた各立地場所別の立地実態を、図 14～17 に示す。

① 家庭の近くにある外部サービスの立地実態

家庭の近くに立地する外部サービスについては、半数以上の家庭が立地すると答えている外部サービスは、45 種類中 13 サービスあり、約 3 割を占める。

サービス形式別にみると、全体的に来店形式である外部サービスの立地率が高い。

居住地別にみると、「居住地が便利」な家庭の方に多く立地している外部サービスは、45 種類中 33 サービスあり、7 割以上を占める。したがって、「居住地が便利」な家庭の方が、外部サービスを利用しやすい状況であるといえる。

サービス分野別にみると、多く立地している外部サービスは、買い物、食生活、公共施設の内の金融関係施設であり、住生活や代行サービスの立地率は低い。

② 仕事場の近くにある外部サービスの立地実態

仕事場の近くに立地する外部サービスについては、半数以上の家庭が立地すると答えている外部サービスは、45 種類中 4 サービスしかなく、家庭の近くにある場合と比べてその立地率はかなり低い。

サービス形式別にみると、全体的に来店形式である外部サービスの立地率が高い。

居住地別にみると、「居住地が便利」な家庭の方に多く立地している外部サービスは、45 種類中 39 サービスあり、9 割を占める。仕事場の近くでも、「居住地が便利」な家庭の方が、外部サー

表 4. 外部サービス分類

サービス分野	サ ー ビ ス 形 式		全体
	来 店 形 式	宅 配 ・ 派 遣 形 式	
1. 食生活	持ち帰り弁当屋 外食用の店 惣菜店 喫茶店	食材宅配サービス 出前サービス 米屋の宅配サービス 酒屋の宅配サービス	
	4	4	8
2. 衣生活	クリーニング店 コインランドリー 仕立て直し屋 衣類寝具保管店 貸衣装店		
	5	0	5
3. 住生活	トランクルーム レンタカー店 ビジネスホテル ウィークリーマンション	掃除用品レンタルサービス 掃除代行サービス 害虫駆除サービス 廃品回収サービス	
	4	4	8
4. 保育	保育園 乳幼児教室	ベビー用品レンタルサービス ベビーシッターサービス	
	2	2	4
5. 買い物	スーパーマーケット コンビニエンスストア デパート		
	3	0	3
6. 教養・趣味・娯楽	サウナ風呂 カラオケボックス カルチャーセンター スポーツセンター ビデオ・CDレンタル		
	5	0	5
7. 医療関係	病院・医院 夜間診療所	往診サービス	
	2	1	3
8. 公共施設	郵便局 銀行 図書館 公民館 消費者センター		
	5	0	5
9. 代行サービス	宅配便受け取りサービス	家事代行サービス 家政婦派遣サービス 便利屋	
	1	3	4
全 体	31	14	45

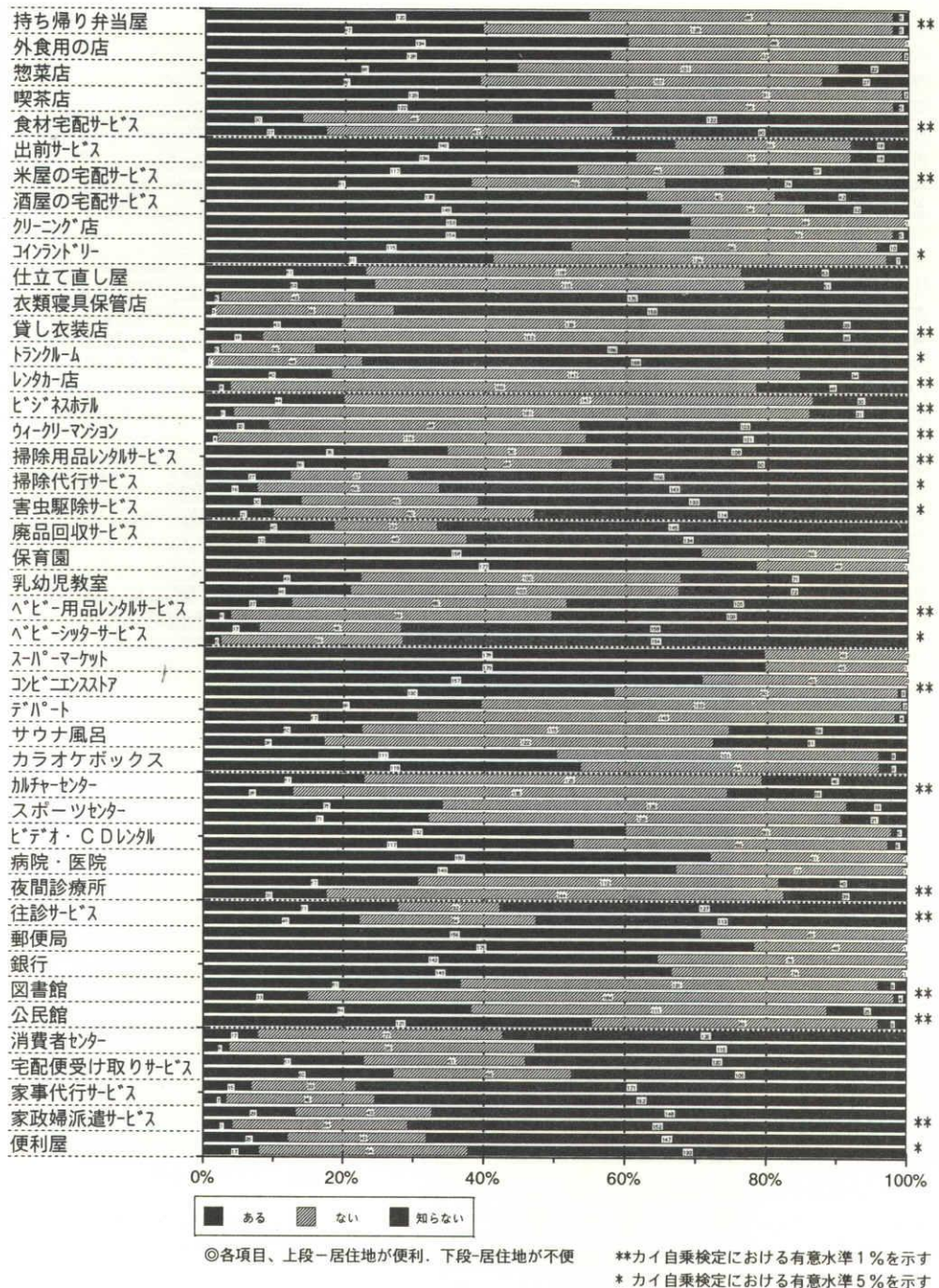


図 14 外部サービスの立地場所（家庭の近く）

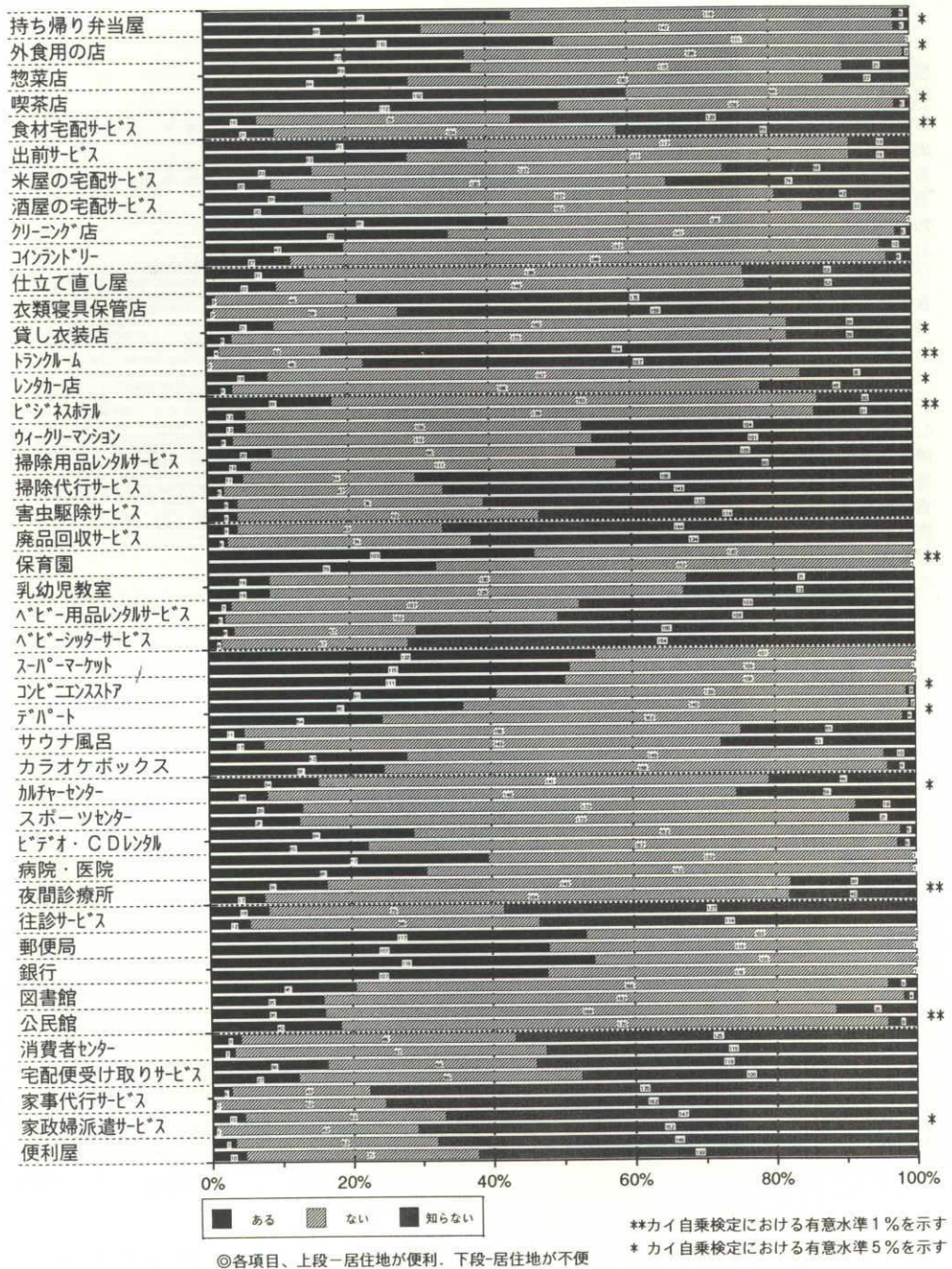


図 15 外部サービスの立地場所（仕事場の近く）

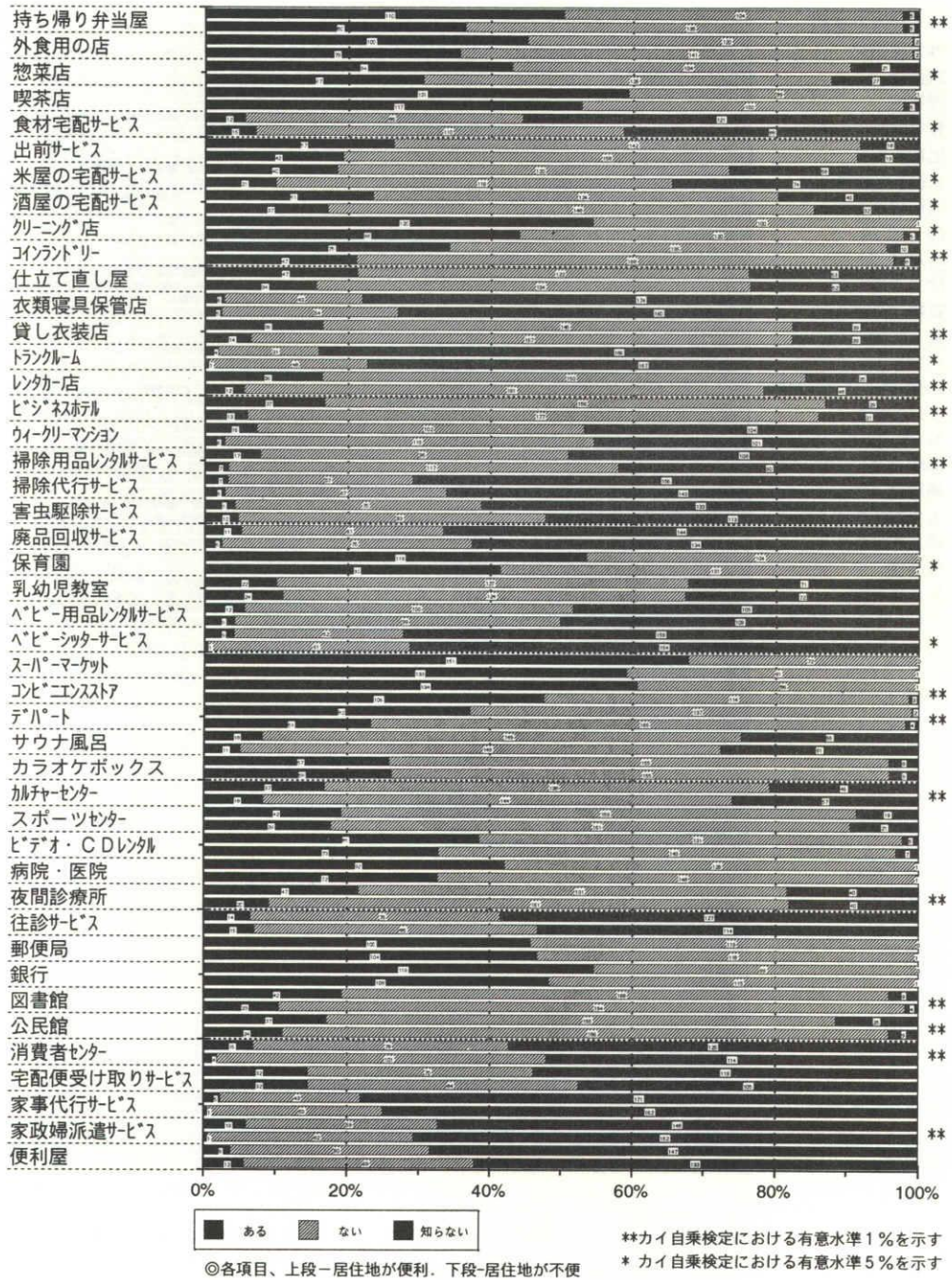


図 16 外部サービスの立地場所（通勤途中）

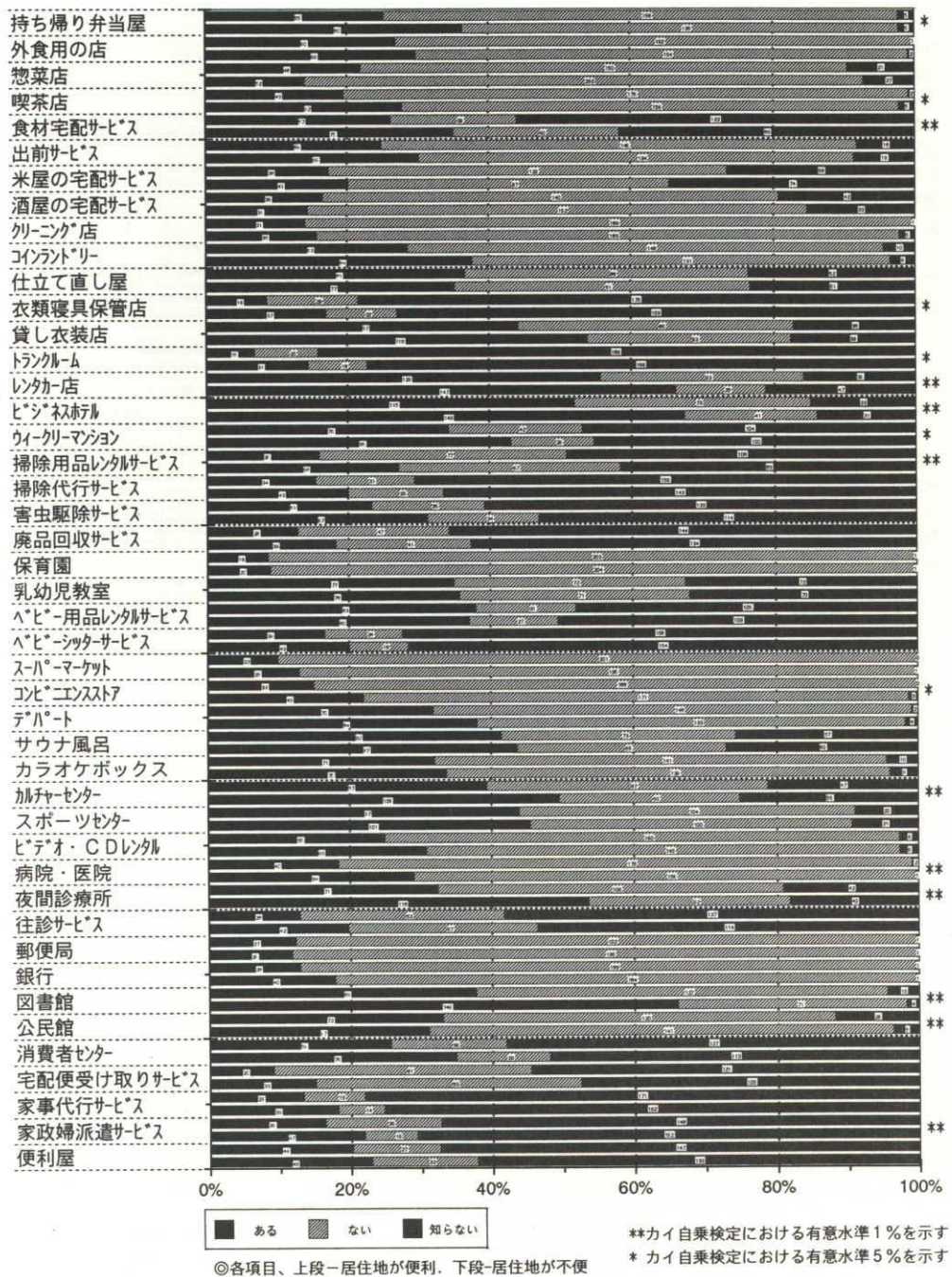


図 17 外部サービスの立地場所（利用しにくい場所）

ビスを利用しやすい状況である。

サービス分野別にみると、家庭の近くにある場合と同様に、多く立地している外部サービスは、買い物、食生活、公共施設内の金融関係施設であり、住生活や代行サービスの立地率は低い。

③ 通勤途中にある外部サービスの立地実態

通勤途中に立地する外部サービスについては、半数以上の母親が立地すると答えている外部サービスは、45 種類中 4 サービスしかなく、仕事場の近くにある場合と同様にその立地率はかなり低い。

サービス形式別にみると、全体的に来店形式である外部サービスの立地率が高い。

居住地別にみると、「居住地が便利」な家庭の方に多く立地している外部サービスは、45 種類中 37 サービスあり、8 割以上を占める。通勤途中にある外部サービスでも、「居住地が便利」な母親の方が、外部サービスを利用しやすい状況である。

サービス分野別にみると、家庭の近くにある場合や仕事場の近くにある場合と同様に、多く立地している外部サービスは、買い物、食生活、公共施設内の金融関係施設であり、住生活や代行サービスの立地率は低い。

④ 利用しにくい場所にある外部サービスの立地実態

利用しにくい場所に立地する外部サービスについては、半数以上の母親が立地すると答えている外部サービスは、45 種類中 3 サービスである。

サービス形式別にみると、全体的に来店形式である外部サービスの立地率が高い。

居住地別にみると、「居住地が便利」な家庭の方に多く立地している外部サービスは、45 種類中 6 サービスであるが、逆に「居住地が不便」な家庭の方に多く立地する外部サービスは、18 サービスあり、利用しにくい場所にある外部サービスの立地率は「居住地が不便」な母親の方に多くなっている。

サービス分野別にみると、利用しにくい場所に多く立地している外部サービスは、住生活、教養・趣味・娯楽に関する外部サービスである。

⑤ 立地場所を認知していない外部サービス

居住地別にみた立地場所の認知率を、図 18 に示す。半数以上の母親が認知していない外部サービスは、45 種類中 12 サービスあり、そのうちの 8 サービスが、宅配・派遣サービスである。15 の

宅配・派遣サービスの半数以上を占める。

サービス分野別にみると、立地場所を認知していない割合が高い外部サービスは、代行サービスと住生活に関する外部サービスであり、居住地による差はみられない。

⑥ 外部サービスを利用しやすい立地場所

来店形式の外部サービス 31 種類について、母親が利用しやすいと考える立地場所を、「家庭の近く」「仕事場の近く」「通勤途中」「こだわらない」の categories に分けて質問した。居住地別にみた母親が利用しやすいと考える場所を、図 19 に示す。

最も利用しやすいと考えられている外部サービスの立地場所は「家庭の近く」が多く、31 種類の内 20 と 7 割を占める。その他の 11 種類の外部サービスでは、立地場所に「こだわらない」と考えられている。「こだわらない」と考えられている割合の高いサービス分野は、住生活や教養・趣味・娯楽に関する外部サービスであり、利用が日常的でないサービスである。

また、金融関係施設、保育園、持ち帰り弁当屋では、「仕事場の近く」に立地している場合が最も利用しやすいと考える母親が 2 割程度、持ち帰り弁当、総菜店、クリーニング店、保育園、スーパー・コンビニでは、「通勤途中」に立地している場合が最も利用しやすいと考える母親が 2 割程度存在する。

居住地別にみると、全体的に「居住地が便利」な母親では、「居住地が不便」な母親に比べて、「仕事場の近く」が最も利用しやすいと考える割合が、やや高くなっている。逆に、「居住地が不便」な母親では、相対的に「家庭の近く」が最も利用しやすいと考える割合が、高い傾向がみられる。

b. 外部サービスの利用状況

外部サービス 45 種類について、その利用の有無を質問した。居住地別にみた外部サービスの利用率を、図 20 に示す。

45 種類の内、19 サービスについては、半数以上の母親が利用したことがあり、16 については 7 割以上の母親が利用している。

外部サービスの分野別にみると、利用率の高い外部サービスは、買い物関係、医療関係、公共施設、食生活関係、と続いている。利用率の低いサービスは、住生活関係と代行サービスであり、立地率の現状と関連がみられる。

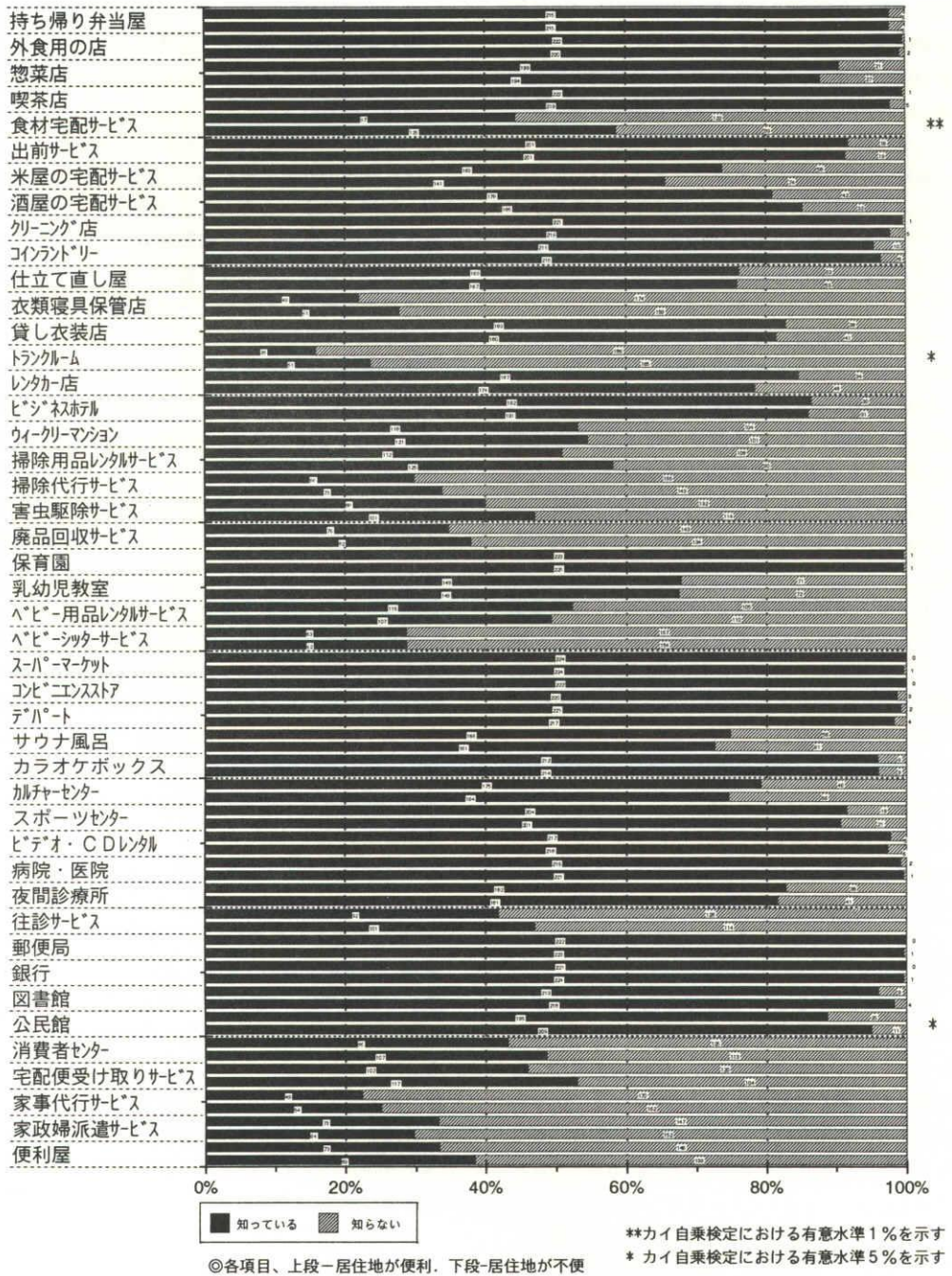


図 18 外部サービスに対する認知状況

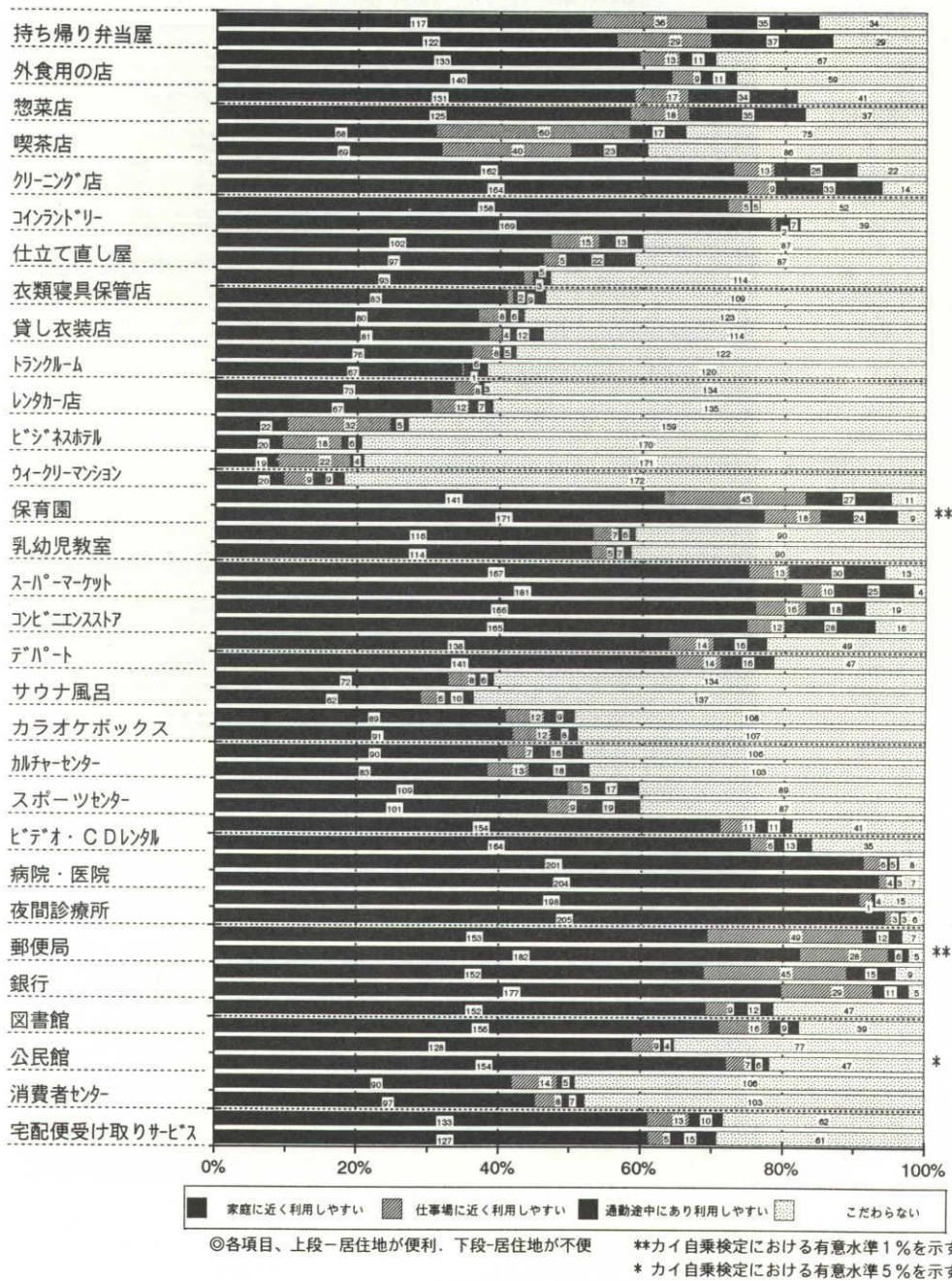


図 19 利用しやすい外部サービスの立地場所

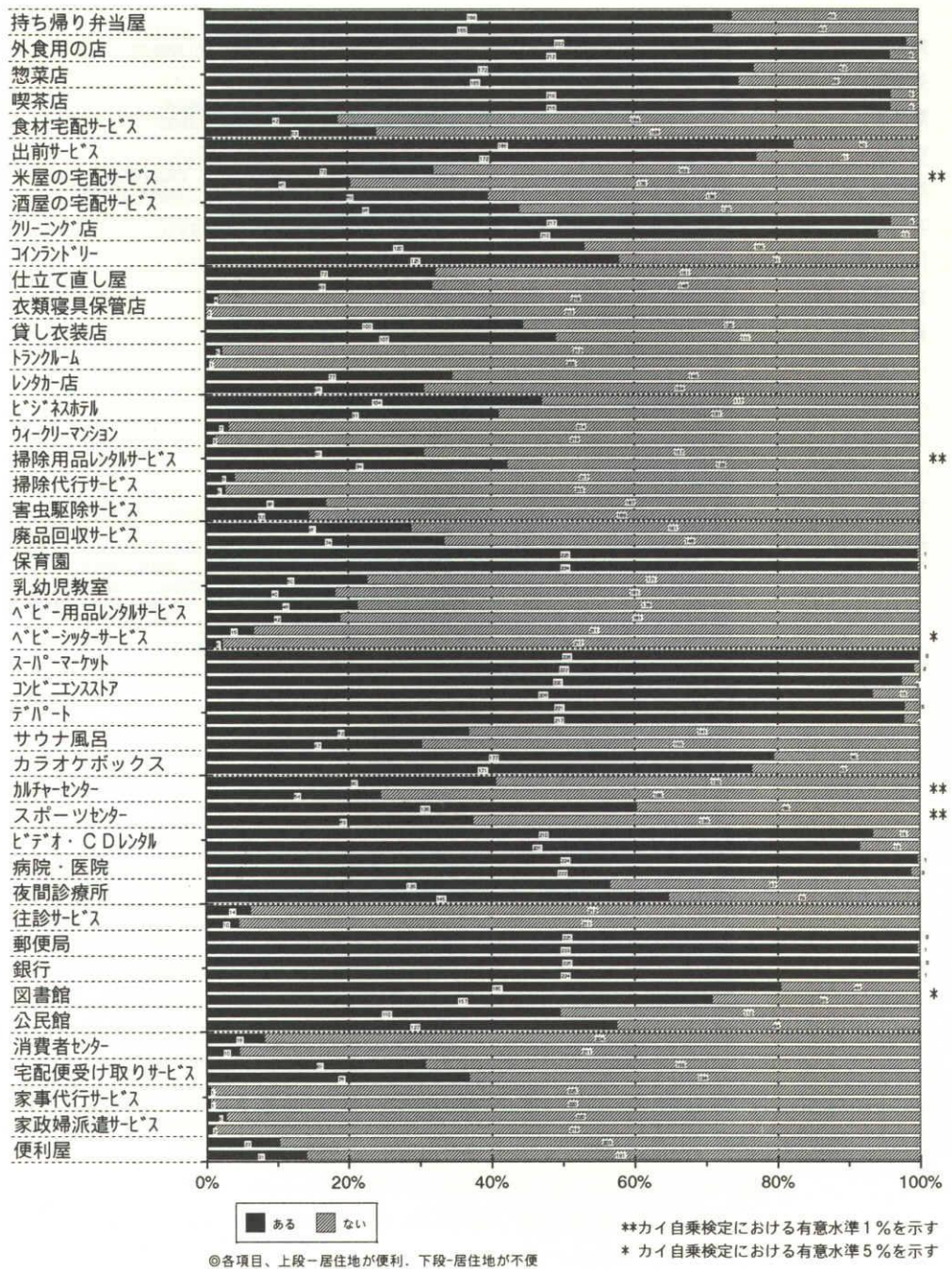


図 20 外部サービスの利用状況

居住地別にみると、「居住地が便利」な母親の方が利用率の高い外部サービスは、45 種類中 31 サービスと 7 割を占めており、「居住地が便利」な母親の利用率が高い。ここでも、立地場所が利用率に関連する状況が現れている。

しかし、「宅配・派遣」サービスにおいては、「居住地が不便」な母親の方が利用率の高いサービスが 14 種類中 8 と多くなっており、立地場所が関係しない「宅配・派遣」サービスは、「居住地が不便」な母親にとっては、重要な意味をもっているといえよう。

c. 外部サービスに対する必要性評価

45 種類の外部サービスに対する母親の必要性評価を、「ぜひ必要」「あったら便利」「なくていい」のカテゴリーに分けて質問した。居住地別にみた、外部サービスに対する母親の必要性評価を、図 21 に示す。

半数以上の母親が「ぜひ必要」と考えるサービスは、45 種類中 11 サービスと 3 割を占める。「なくていい」と考える母親が半数近くを占めるサービスは衣類寝具保管店、ウィークリーマンション、トランクルームの 3 サービスのみであり、これらのサービスは、立地場所の認知率、立地率、利用率も低い。

サービス分野別にみると、買物関係、医療関係、公共施設等、日常的に利用するサービスに対する必要性意識が高い。

居住地別にみると、全体的に、「居住地が不便」な母親の必要性意識が低くなっており、外部サービスの立地状況が影響していると考えられる。

d. 外部サービスの利用条件に対する意識

現在の状況において、利用が多くなると考える改善条件について、サービス形式別に質問した。居住地別にみた母親が考える改善条件を、図 22～27 に示す。

① 来店形式の外部サービスの場合

サービス時間に対する改善要求が高いサービスは、医療関係、公共施設、買物関係の外部サービスであり、利用が多く、日常的に利用するサービスでは、営業時間に対する改善要求が高い。居住地別にみると、「居住地が便利」な母親の方が、改善要求は強い。

立地場所に対する改善要求が高いサービスは、住生活関係、衣生活関係の一部を除いて全般にわたっており、改善要求は強い。居住地別にみると、「居住地が不便」な母親の方が、改善要求は強い。

価格に対する改善要求が高いサービスは、全般にわたっているが、特に利用頻度が高いと思われるサービスにその傾向が強く、居住地による違いはみられない。

② 宅配・派遣形式の外部サービスの場合

サービス時間に対する改善要求が高いサービスは、出前、往診サービスであり、「居住地が便利」な母親の方に、改善要求が強い。

サービス内容に対する改善要求が高いサービスは、食材宅配と代行サービスに多く、居住地による違いはあまりみられない。

価格に対する改善要求は、全般的に強く、居住地による違いもあまりみられない。

e. 外部サービス利用における最重要条件

現状に関係なく、母親が外部サービスを利用するにあたって、最も重要であると考え条件について、サービス形式別に質問した。居住地別にみた母親が考える最重要条件を、図 28 と 29 に示す。

① 来店形式の外部サービスの場合

来店形式の外部サービスについて、時間、立地場所、価格の中で、利用する上で母親が最重要と考える条件を検討する。来店形式の外部サービス 31 種類の内、時間を最重要条件と考えるサービスは 3 種類、立地場所は 17 種類、価格は 11 種類となっており、立地場所を最重要条件と考えるサービスが多い。

サービス分野別にみると、医療関係、公的施設の中の金融関係施設では、時間を最重要条件と考える母親が多い。また、非日常的な利用が多いと考えられる衣生活関係や住生活関係のサービスでは、価格が最重要条件となっている。その他の食生活、衣生活、保育、買物、教養・趣味・娯楽、文化面の公的施設等、多くの外部サービスに対しては、立地場所が、最重要条件と考えられている。

居住地別にみると、「居住地が便利」な母親は、相対的に「居住地が不便」な母親よりも時間や価格を重視する傾向が多くみられ、逆に「居住地が不便」な母親は、立地場所を重視する傾向が多くみられる。

② 宅配・派遣形式の外部サービスの場合

宅配・派遣形式の外部サービスについて、時間、サービス内容、価格の中で、利用する上で母親が最重要と考える条件を検討する。宅配・派遣形式の外部サービス 14 種類の内、時間を最重要条件と考えるサービスは医療関係の 1 種類のみで、その他の 13 種類はすべて価格が最重要条件と考え

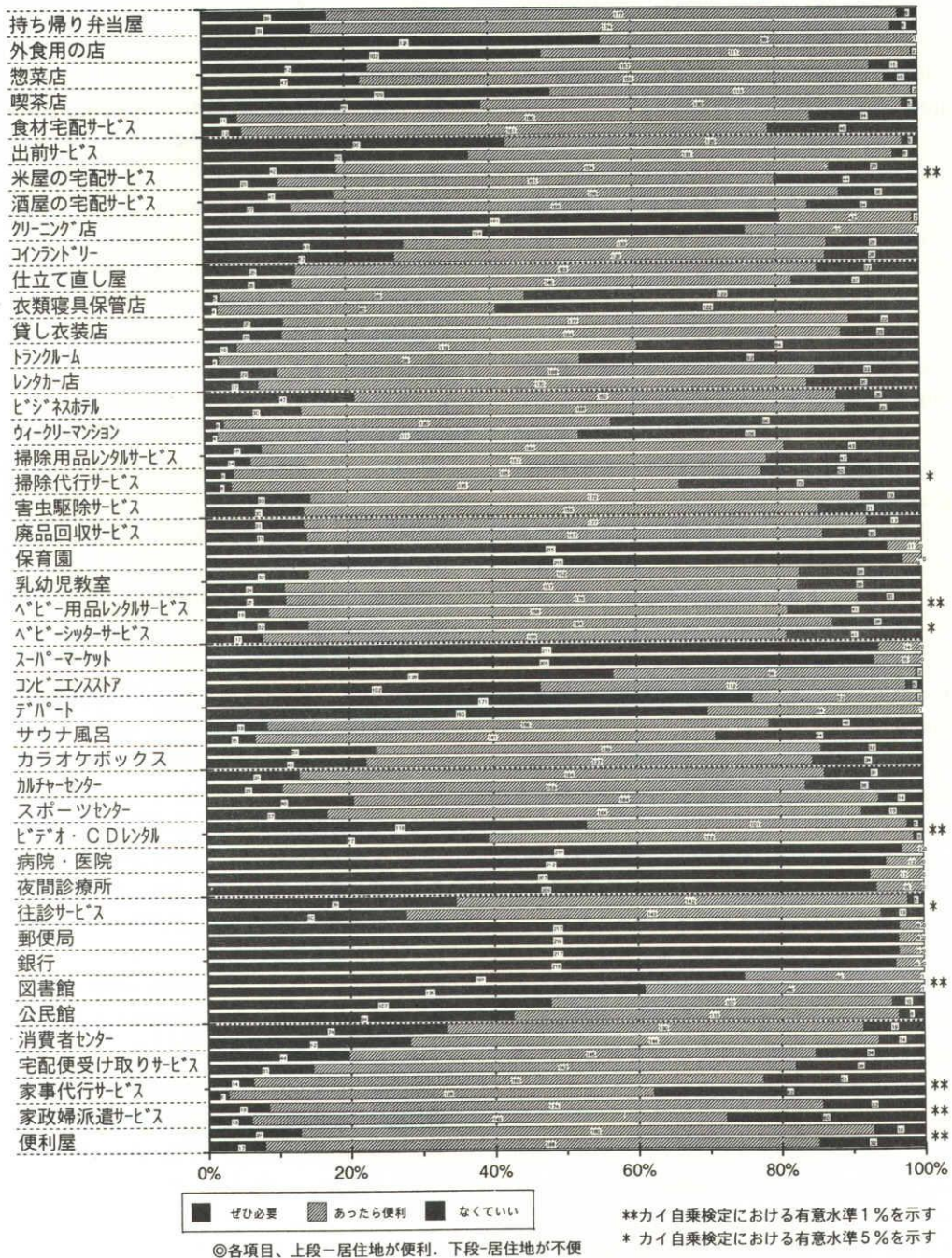


図 21 外部サービスに対する必要性評価

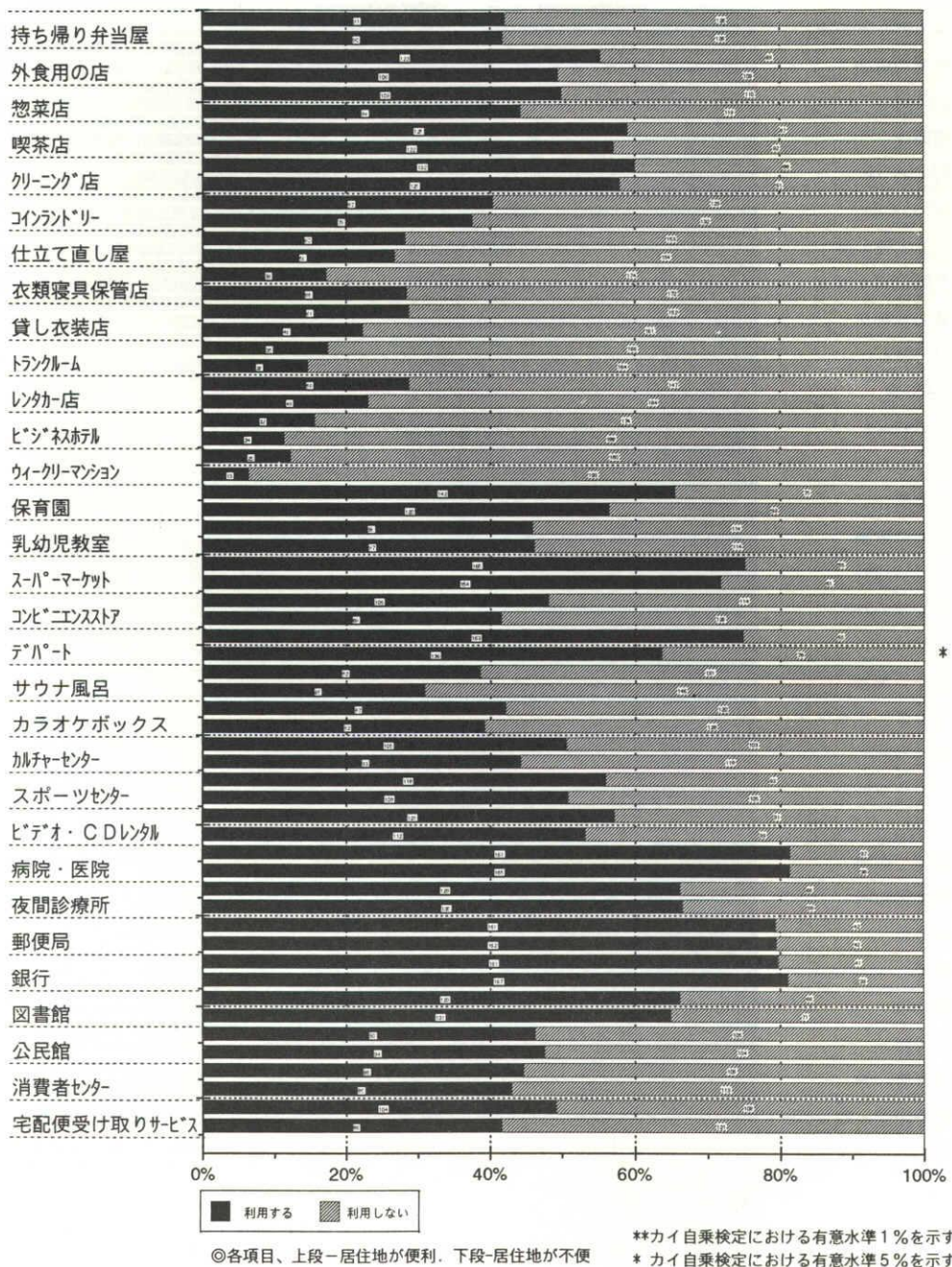


図 22 サービス時間の改善（来店形式の外部サービス）

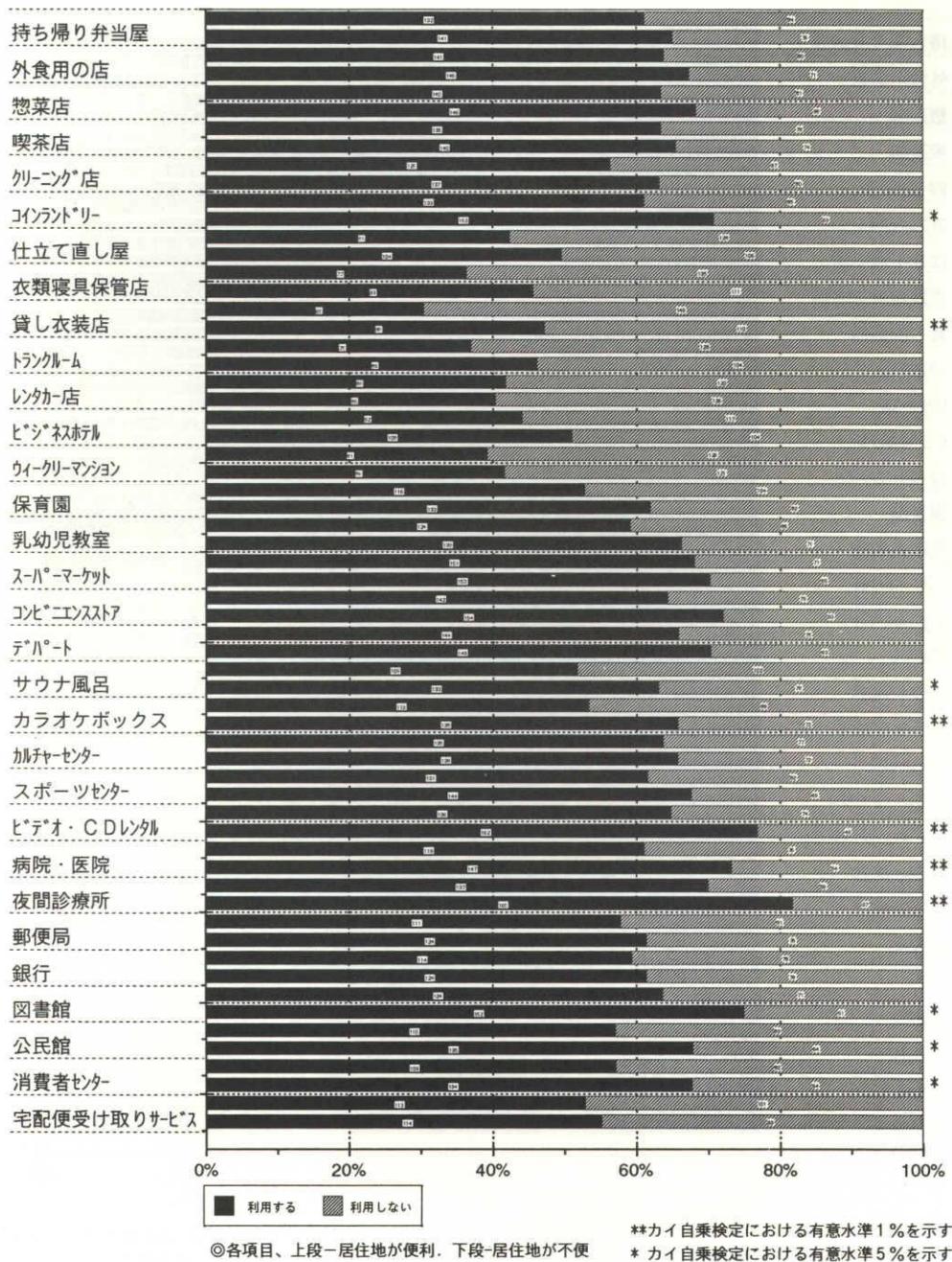


図 23 立地場所の改善(来店形式の外部サービス)

られている。

全体を通してみると、最重要条件と考えられているのは価格、サービス内容、時間の順になっており、居住地による違いはあまりみられない。

4. まとめ

乳幼児をもつ働く母親にとっての住環境のあり方を検討するため、三重県津市内の保育所に入所させている母親を対象として、調査を実施した。その結果、以下の知見が明らかになった。

1) 母親は、家族を優先した生活をしており、夫

と比べて睡眠時間が短く、自分の時間がもてずに過労気味であるなど、自分の個人生活を犠牲にした家庭生活を送っている。父親の方は、在宅時間が短く、家庭生活への参加度はかなり低い。

2) 母親は、医療機関や商店のサービス時間、郵便物の受け取り、地域活動への参加等、勤務時間との関わりで生じる問題に、多くの困難を感じている。

3) 家事労働のほとんどすべてを母親が担っており、家事負担軽減策も家庭内で行う方策に偏っているが、理想としては外部サービス利用を考える

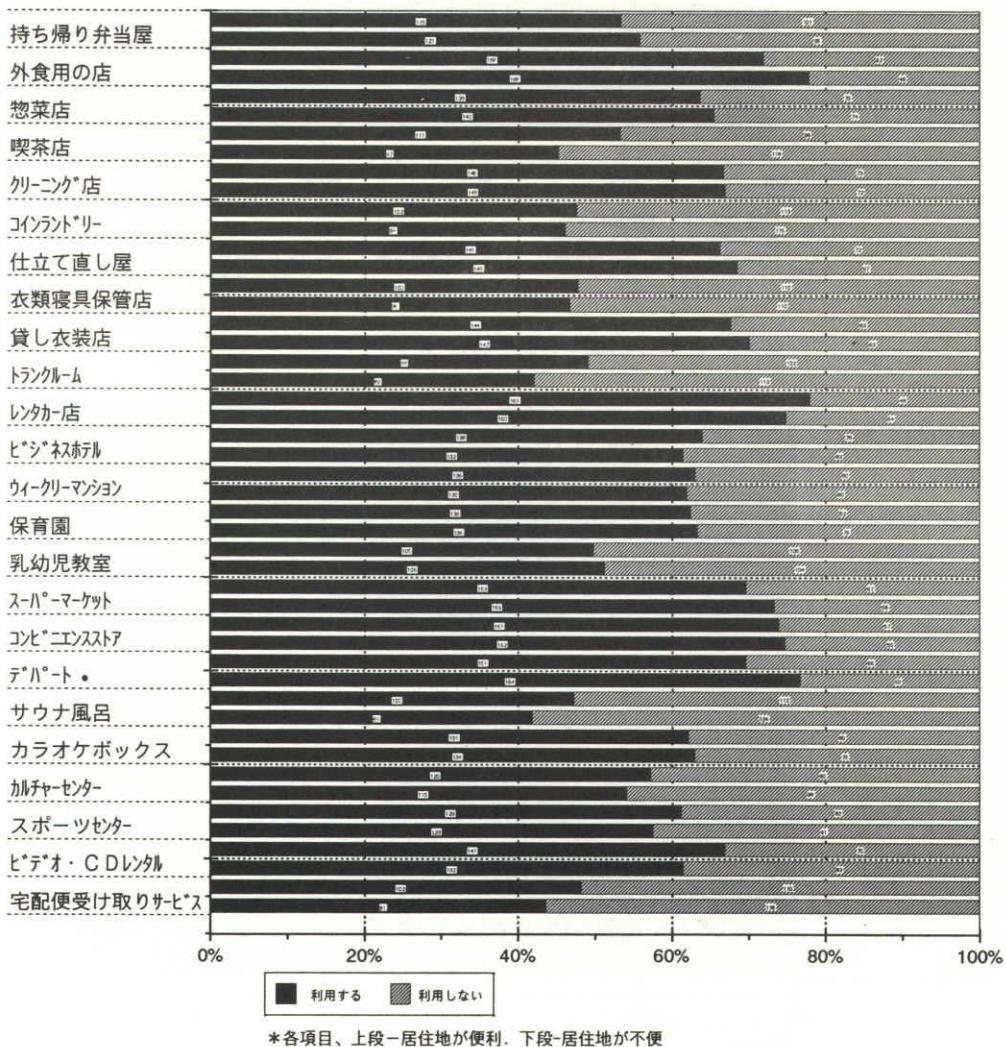


図 24 価格の改善（来店形式の外部サービス）

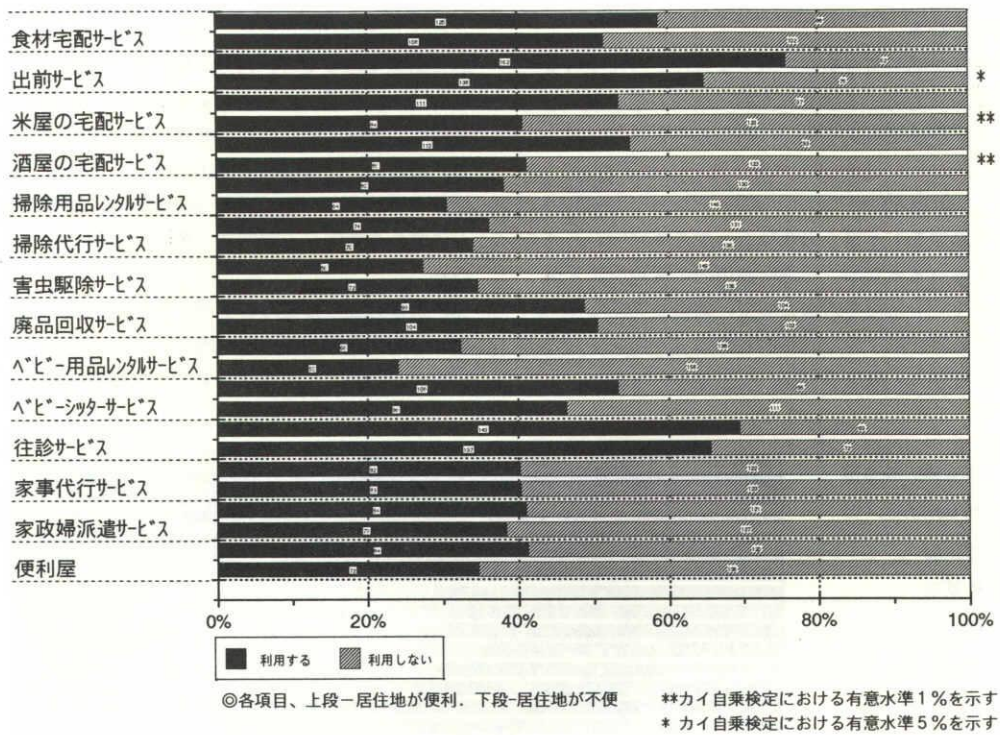


図 25 サービス時間の改善（宅配・派遣形式の外部サービス）

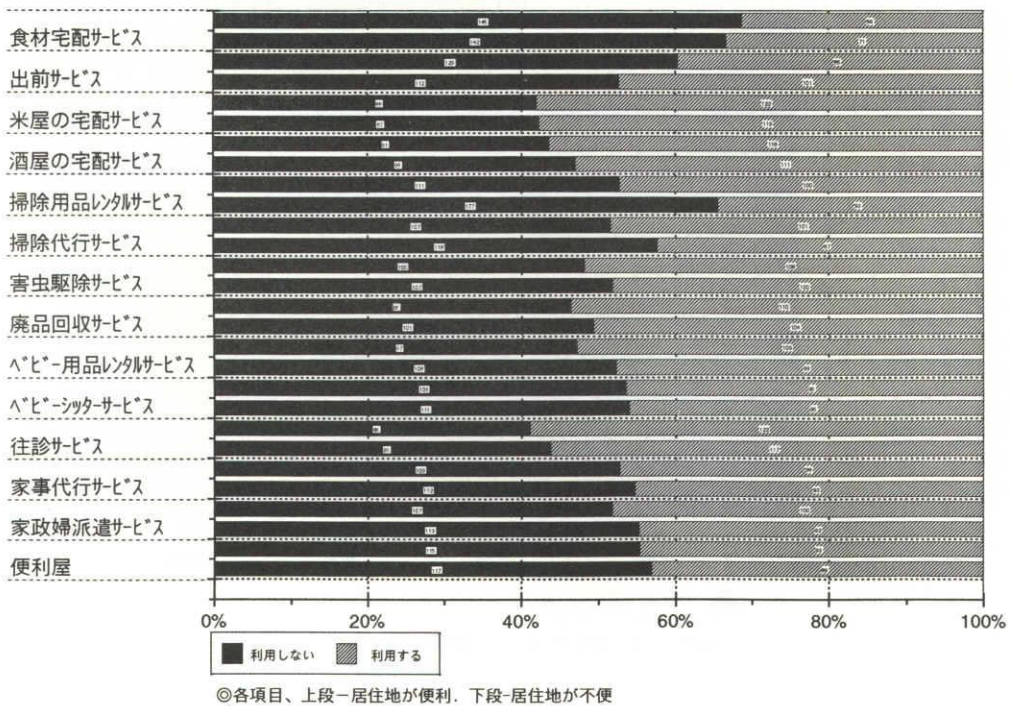


図 26 サービス内容の改善（宅配・派遣形式の外部サービス）

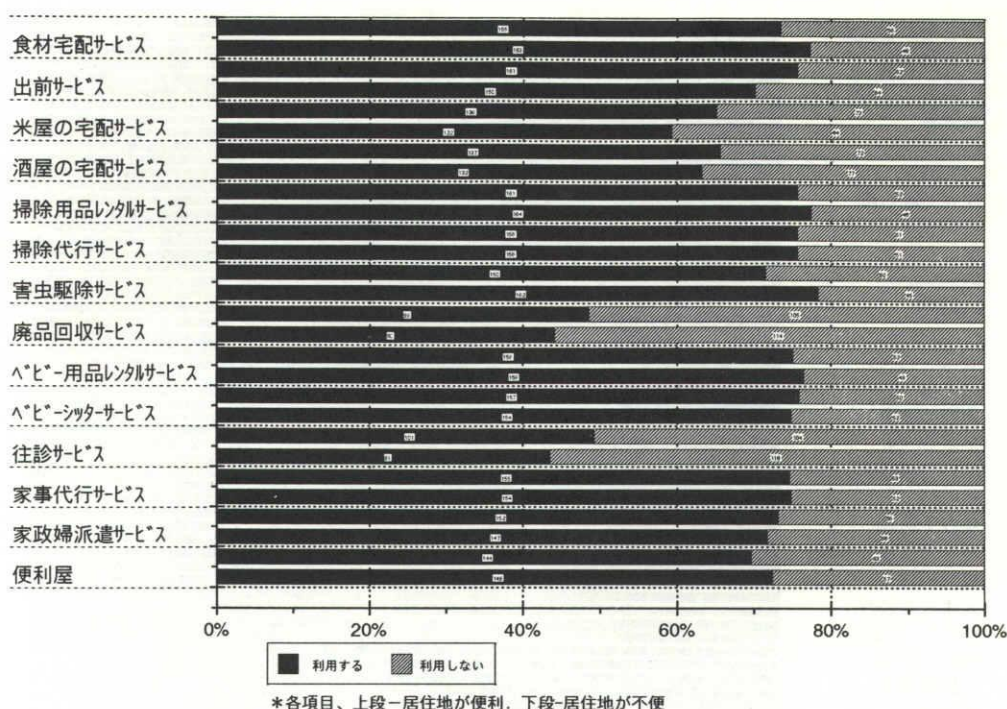


図 27 価格の改善（宅配・派遣形式の外部サービス）

母親が増加している。

4) 外部サービスの立地場所の現状において、「家庭の近く」に立地しているサービスは比較的多いが、「仕事の近く」「通勤途中」に立地しているサービスは少ない。サービス形式別にみると、来店形式のサービスに比べて宅配・派遣形式のサービス立地が少なく、認知すらされていない場合が多い。サービス分野別にみると、いずれの場所についても、買い物、食生活、金融関係施設の立地率は高いが、住生活や代行サービスの立地率は低い。居住地別にみると、「居住地が便利」な家庭の方が、いずれのサービスについても、利用しやすい場所での立地率が高く、外部サービスの利用が行いやすくなっており、居住地による差が大きい。

5) 外部サービスが利用しやすい立地場所と考えられているのは、「家庭の近く」が、圧倒的に多い。非日常的な利用に関わるサービスについては、立地場所に「こだわらない」と考える母親が多い。

6) 外部サービスの利用状況は、その立地状況との関連が強く、多く立地しているサービスについ

ては、利用も多くなっている。居住地別にみると、来店形式のサービス利用は、「居住地が便利」な母親に多く利用されている。宅配・派遣形式のサービス利用は「居住地が不便」な母親に多い傾向がみられ、外部サービスの立地率が低い「居住地が不便」な母親にとっては、宅配・派遣形式のサービスがもつ意味は大きい。

7) 外部サービスに対する必要性意識は、利用しやすい場所の立地率や利用率の高いサービスに対して高い。また、立地率が少ない「居住地が不便」な母親の必要性評価は低い。

8) 現状において、利用が多くなると考える改善要求については、サービス時間に対しては日常的に利用するサービスに多く、「居住地が便利」な母親の方に多い。立地場所については、サービス全般にわたっており、「居住地が不便」な母親に多くみられる。宅配・派遣サービスでは、サービス時間について「居住地が便利」な母親に多く、価格に対する改善要求は、全般的に強い。

9) 外部サービス利用において、最重要条件と考えられているのは、来店形式のサービスの場合、

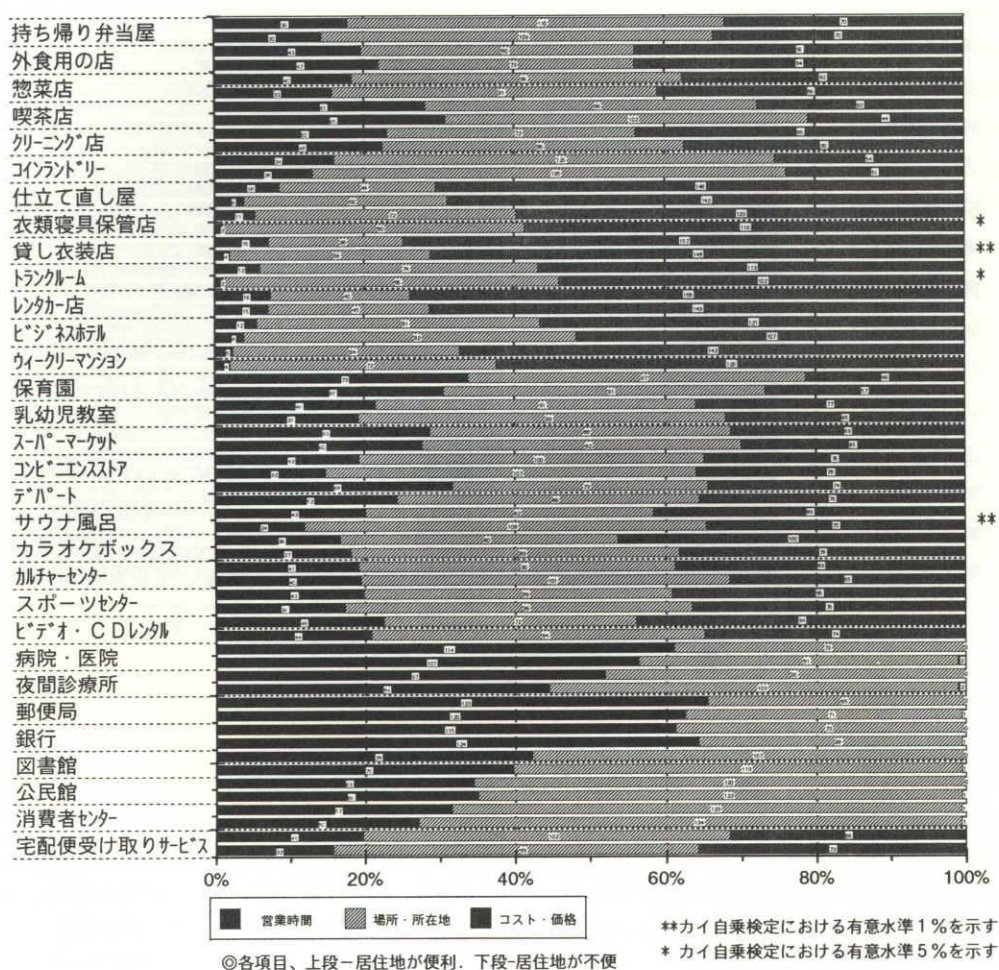


図 28 外部サービスに対する最重要条件 (来店形式の外部サービス)

立地場所が最も多く、各サービス分野にわたっており、「居住地が不便」な母親の方にその傾向がより強くなっている。サービス時間は日常利用のサービスに多く、「居住地が便利」な母親の方に多い傾向がある。非日常利用のサービスでは価格が最重要条件となっている。宅配・派遣形式のサービスの場合、価格が最重要条件となっており、居住地による違いはみられない。

以上のように、乳幼児をもつ働く母親は、個人生活を犠牲にして、家庭生活を維持しており、家事労働の負担を軽減することが、非常に重要になっている。しかし、現状では、家事労働の軽減化は、家庭内の軽減化方策に限られており、ほとんど大

きな実効をあげていない。

したがって、外部サービス利用を押し進めることは、家事負担を軽減させる上で大きな効果が期待できる。

しかし、「居住地が不便」な母親にとっては、利用しやすい場所に立地されている外部サービスが少なく、利用が困難な状況になっている。その分、宅配・派遣サービスで補っているが、このサービスの立地率も少ない現状である。立地場所は、来店形式の外部サービスに対する必要条件としても最も重視されており、これらを家庭の近くの利用しやすい場所に多く立地させることが、外部サービスの利用を多くし、家事負担の軽減化を進めることに大きな効果をもたらすといえる。

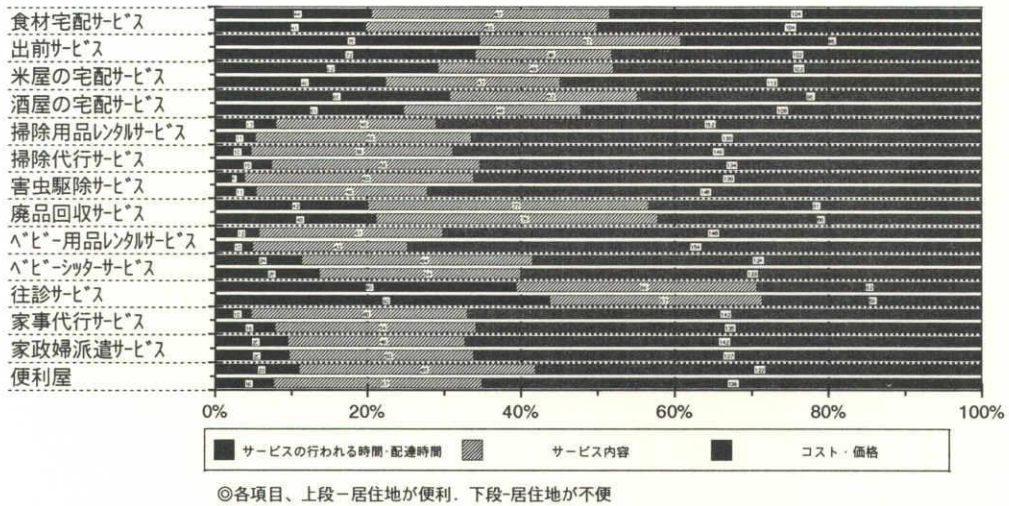


図 29 外部サービスに対する最重要条件（宅配・派遣形式のサービス）

注

- 1) クリエイティブ ハウジング プロジェクト：
「メンタルネットワーク居住を創る」ー 都市に
おける「働く女性」の住まい方と住環境に関す
る調査研究報告ー、アーバンハウジング レ
ディスフォーラム、昭和 62 年
- 2) 共働き家族研究所：「家事のゆくえー 外部
サービスの利用と家庭処理の比較を通してー」、
旭化成工業
- 3) 橋田洋子：「子供のいる共働きの暮らしにつ
いての調査 その 4 コミュニケーション状況
からの分析」、日本建築学会大会学術講演梗概
集、1991